

投資環境レポート

2013 年 12 月

本資料は 2013 年 12 月 5 日時点での利用可能な情報をもとに作成しています。



【目次】

経済見通し	1
1. 日本経済	1
2. 米国経済	5
3. 欧州経済	9
(1) ユーロ圏経済	9
(2) 英国経済	12
4. (参考) B R I C s およびオーストラリア、カナダ経済	13
市場見通し	19
1. 債券	19
1-1. 国内債券	19
1-2. 米国債券	21
1-3. ユーロ圏債券	21
2. 株式	24
2-1. 国内株式	24
2-2. 外国株式	28
3. 為替	30
3-1. ドル円	30
3-2. ユーロドル	30
4. 市場見通し(まとめ)	32
【参考】当面の主要な政治・経済カレンダー	34

経済見通し

1. 日本経済

政策期待と海外経済の持ち直しで回復基調を継続。

景気

【企業・生産】

10月の鉱工業生産は、前月比+0.5%で、7~9月期の前期比1.8%に引き続き、ASEANなどの回復鈍化による輸出回復の足踏みから、生産の基調も依然緩やかな改善にとどまっている。しかし、予測指数においては11月、12月それぞれ前月比+0.9%、+2.1%と、素材、加工を問わず広い業種で増産を見込まれている。製造業企業景況感(PMI)は引き続き改善傾向にあり、円安の輸出数量押し上げ効果や消費税率引き上げ前の駆け込み需要、2012年度補正予算執行などにより、生産は徐々に持ち直すものと思われる。輸出についても、先行指標となる米欧や中国など主要国の製造業景況感指数や輸出受注見通しが改善を示しており、緩やかながら回復基調を維持する可能性が高いと思われる。また、設備投資については、機械受注等の先行指標がはっきりと持ち直しており、10月の資本財出荷(除く輸送機器)は前月比+9.5%と急上昇するなど、今後の設備投資回復を示唆している。

【雇用・消費】

雇用については、先行指標となる製造業の所定外労働時間が増加しているほか、新規求人数も建設業を中心に改善を見せており、雇用者数も増加基調となっている。賃金に関しては、依然基本給は前年を下回る推移が続いており、総じて本格回復には至っていないが、所定外給与の増加継続や企業収益の改善による冬のボーナスの増加による賃金改善が見込まれる。雇用や所得の持ち直しに加え、円安、株高による、消費者マインドの改善や資産効果で、当面は個人消費も底堅い推移が予想される。

【その他】

公共投資の先行指標である公共工事請負金額は7~9月に前期比▲0.1%と概ね横ばいにとどまり、10月は7~9月期の水準を10%以上下回っているため、公共投資は年明けには一旦減少に向かうとみられるが、政府は支出規模5兆円に1兆円程度の減税を加えた景気下支え策を12月に取りまとめる予定であり、公共投資が再び景気の下支え役となることが期待される。

物価

10月の消費者物価指数(生鮮食料品を除く総合)は、前年比+0.9%(前月:同0.7%)となる一方、食料・エネルギーを除く基調的な消費者物価は前年比+0.3%(前月:同±0.0%)となり、ともに上昇率を拡大させた。今後の消費者物価(生鮮食料品を除く総合)は、足許の円安による輸入物価の上昇などから、年度内は一時的に前年比 1%台半ば程度までプラスを拡大する見込みであるが、14年度に入ると消費税率引き上げに伴う景気減速の影響や円安効果の一巡などから伸びは頭打ちとなることが予想される。

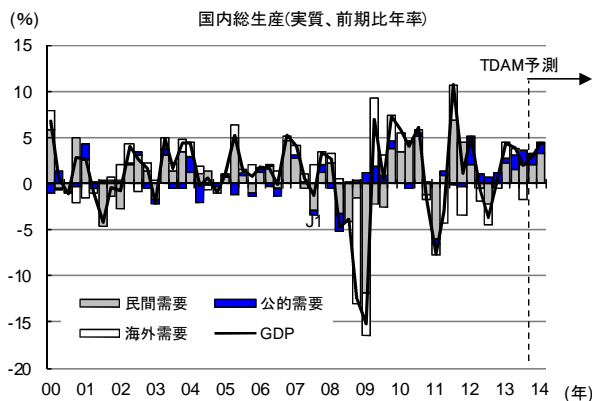
【経済予測表】

	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度 (TDAM予測)	
	前年比(%)	寄与度(%)	前年比(%)	寄与度(%)	前年比(%)	寄与度(%)	前年比(%)	寄与度(%)
実質国内総生産(GDP)	3.3	-	1.4	-	1.1	-	2.8	-
国内需要	2.6	(2.5)	1.0	(1.0)	2.9	(1.9)	2.9	(2.8)
民間需要	3.2	(2.3)	0.6	(0.5)	1.3	(1.0)	1.9	(1.4)
民間最終消費支出	▲ 7.5	(0.9)	13.4	(0.7)	1.6	(1.0)	1.9	(1.1)
民間住宅	14.7	(0.1)	17.0	(0.1)	5.4	(0.1)	8.8	(0.2)
民間企業設備	▲ 4.3	(0.5)	-	(0.1)	▲ 1.2	(▲ 0.2)	0.6	(0.1)
公的需要	0.8	(0.2)	2.2	(0.5)	4.2	(1.0)	4.6	(1.1)
財貨・サービスの純輸出	-	(0.8)	-	(▲ 1.0)	-	(▲ 0.7)	-	(▲ 0.0)
財貨・サービスの輸出	▲ 10.0	(2.3)	19.0	(▲ 0.2)	▲ 1.3	(▲ 0.2)	3.2	(0.5)
財貨・サービスの輸入	▲ 8.5	(▲ 1.5)	5.7	(▲ 0.8)	3.9	(▲ 0.5)	3.6	(▲ 0.5)
名目国内総生産(前年比)	1.3		▲ 1.4		0.4		2.7	
デフレーター(前年比)	▲ 2.0		▲ 1.7		▲ 0.7		▲ 0.1	
主要経済指標(前年比)								
鉱工業生産	8.9		▲ 1.1		▲ 2.6		3.3	
消費者物価(除く生鮮食品)	▲ 0.9		▲ 0.0		▲ 0.2		0.9	

出所: 内閣府、経済産業省、総務省、Bloomberg より TDAM 作成

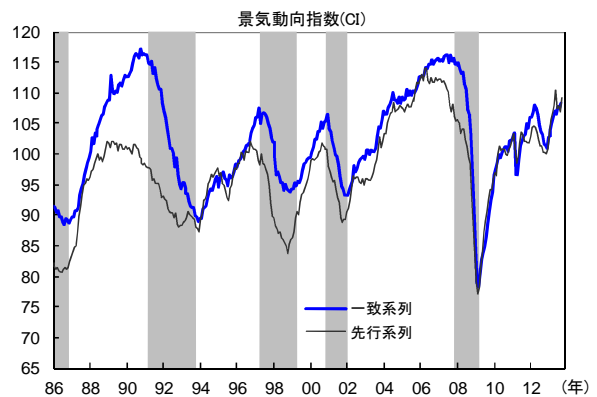
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンデへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2013 年度内は回復基調が継続する見通し



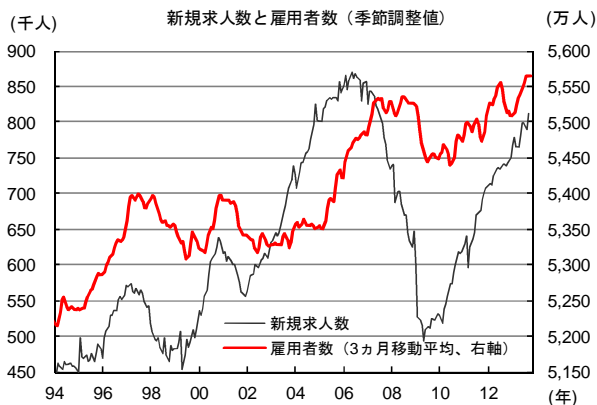
出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

CI は、昨年 11 月を底に先行、一致とも反発



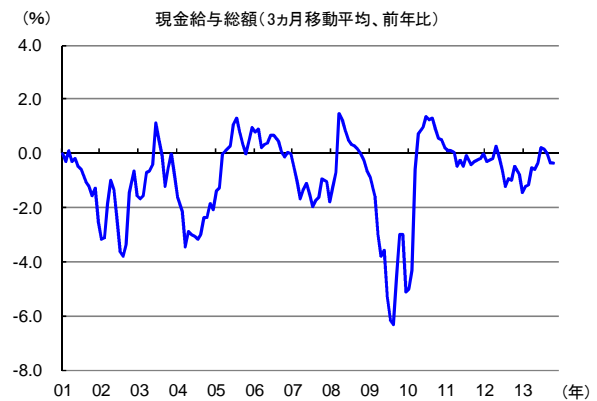
注: グレー部分は景気後退期をあらわす。
出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

新規求人数に遅行して、ようやく雇用も増加基調に



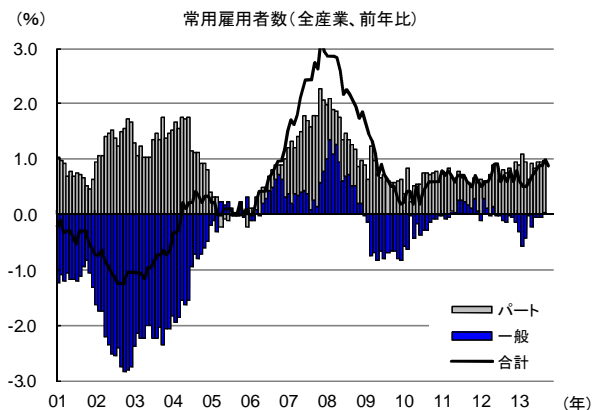
出所: 総務省、厚生労働省、Bloomberg より TDAM 作成

雇用者所得は所定外の増加などから持ち直し傾向



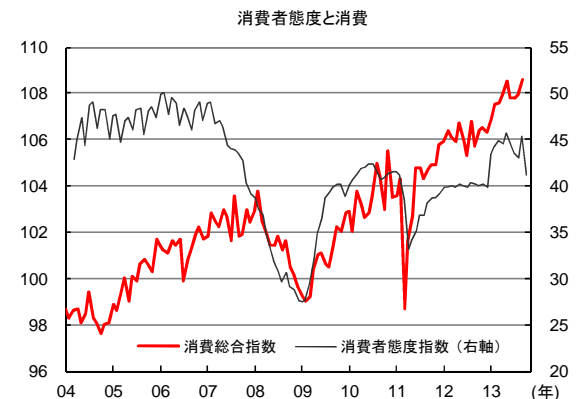
出所: 総務省、厚生労働省、Bloomberg より TDAM 作成

雇用はパート中心に緩やかな回復が継続



出所: 厚生労働省、Bloomberg より TDAM 作成

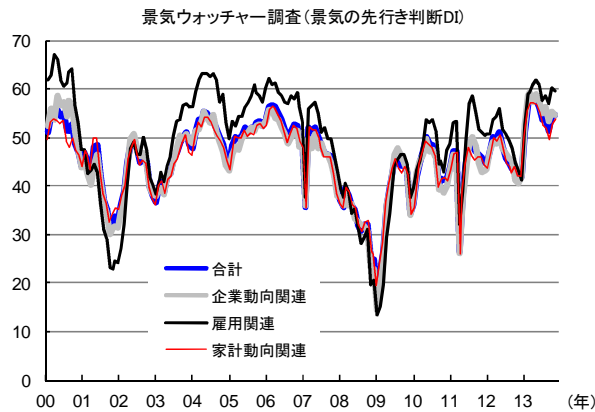
消費態度指数は足許大きく反発後、やや頭打ち



出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

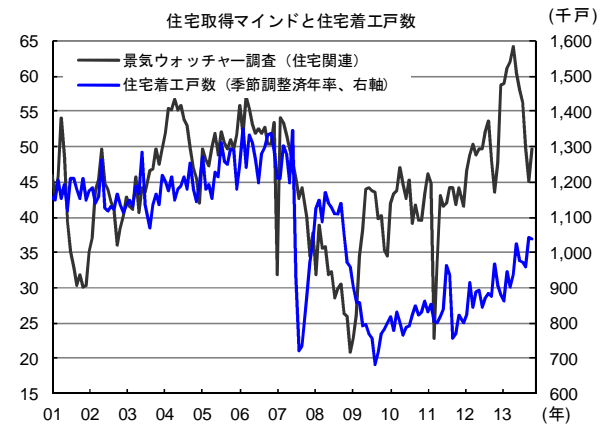
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

企業、家計のマインドは、昨年後半から急回復後、足許一服



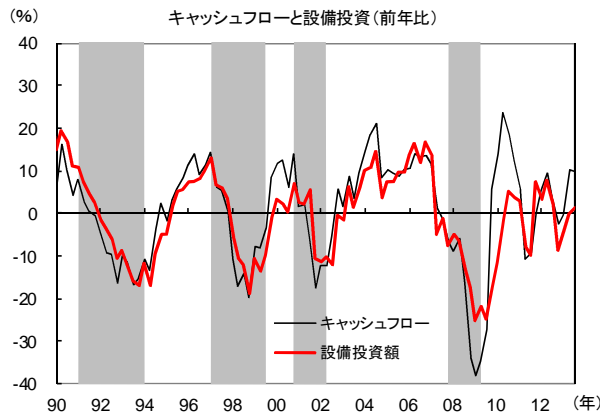
出所: 内閣府、Bloomberg より TDAM 作成

住宅着工は駆け込み需要が下支え



出所: 内閣府、国土交通省、Bloomberg より TDAM 作成

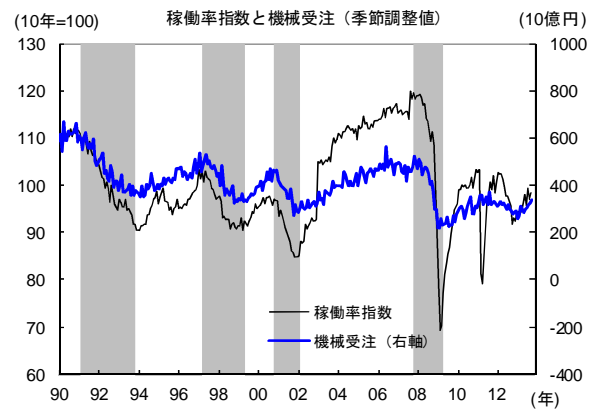
設備投資は潤沢なCFと復興需要が下支え



注: キャッシュフロー=経常利益(税金相当 50%控除)+減価償却費。
グレー部分は景気後退期をあらわす。

出所: 財務省、FACTSET より TDAM 作成

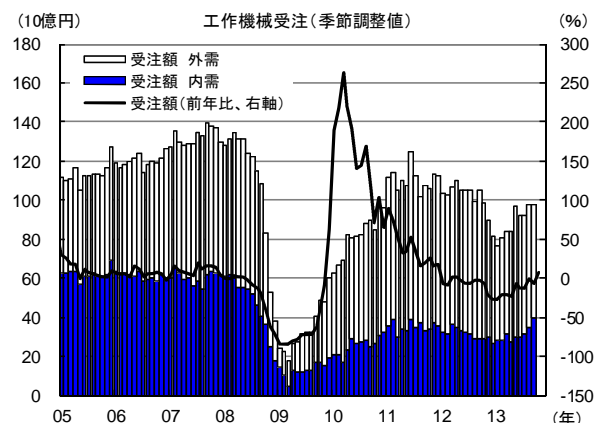
稼働率は足許改善基調だが、設備投資の回復は依然緩慢



注: グレー部分は景気後退期をあらわす。

出所: 内閣府、経済産業省、Bloomberg より TDAM 作成

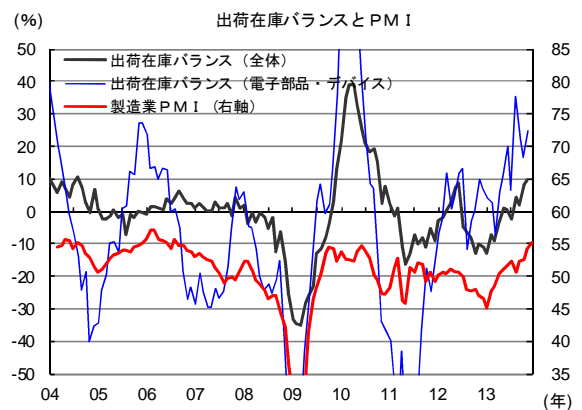
工作機械受注は内外需ともに持ち直し



注: 季節調整は TDAM による。

出所: 日本工作機械工業会、Bloomberg より TDAM 作成

製造業 PMI は 50 超え、出荷在庫バランスも改善傾向

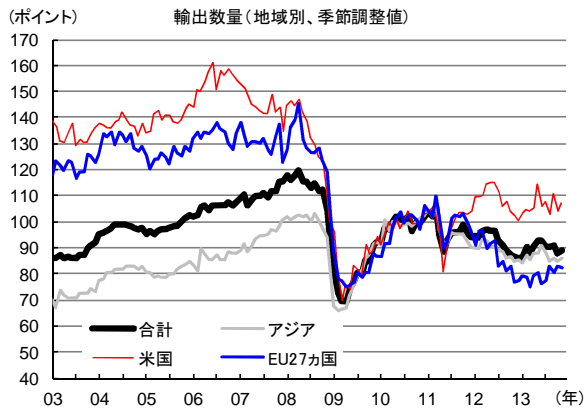


注: 出荷在庫バランス=出荷(前年比)-在庫(前年比)。

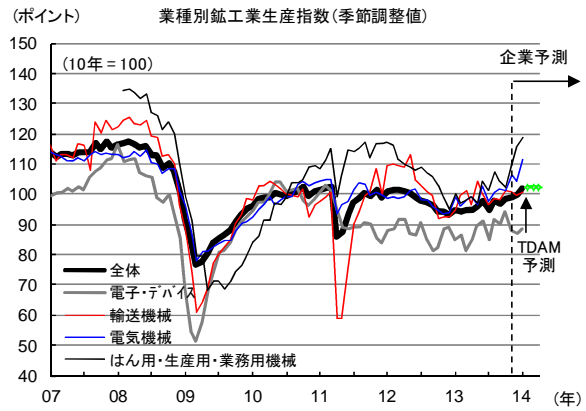
出所: 経済産業省、マークイット、野村證券、Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

【ご留意事項】 本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

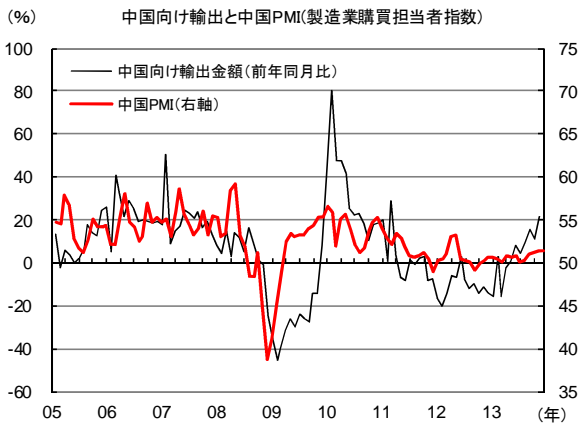
鈍い輸出の回復



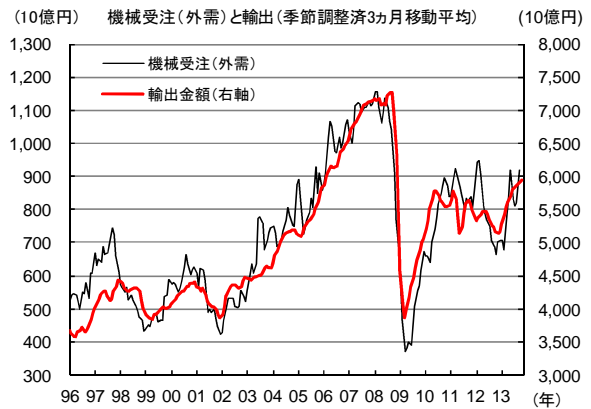
企業の生産予測は、今後の緩やかな増加を示唆



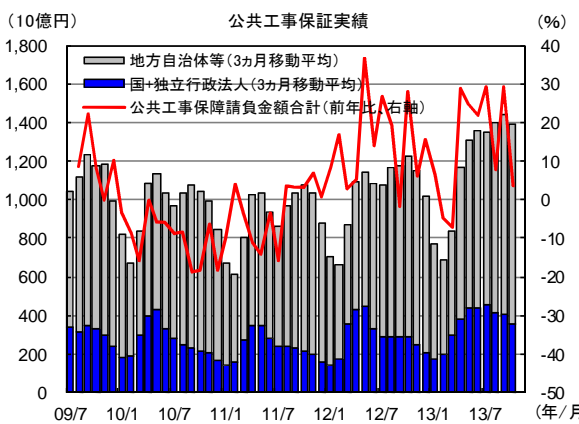
ようやく中国向け輸出にも回復の兆し



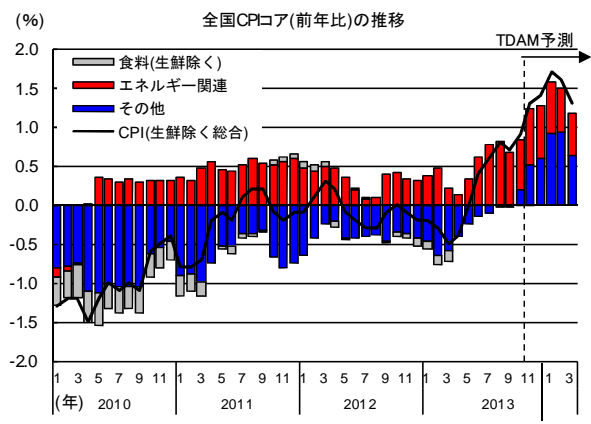
海外からの機械需要は下げ止まり



補正予算により当面高水準での推移が見込まれる公共工事



CPIコアは、年度内は前年比プラス基調で推移する見込み



【ご留意事項】 本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2. 米国経済

家計、住宅、設備、ともに緩やかな回復基調を維持。政府債務問題が今後も懸念材料。

景気

【企業・生産】

企業景況感においては、ISM製造業指数が11月57.3と新規受注を中心に7月以降55を超える高い水準を維持する一方、ISM非製造業指数も足許財政問題で振れが大きくなっているものの総じて底堅い動きを続けている。生産は、中国等の一部新興国需要の弱含みなどによる下押し圧力は徐々に和らぎ、住宅や自動車などの国内需要にも下支えされ、緩やかな回復基調は維持される見込みである。設備投資についても、先行指標の一つである耐久財受注などで弱含む動きが見られるが、企業景況感の回復や資本収益率の改善、銀行の貸出基準の緩和もあり、回復傾向を維持するものと予想する。

【雇用・消費】

雇用については、先行的な指標であるISMやNFIB中小企業向調査にける企業の雇用見通し、製造業の残業時間など、依然緩やかな改善傾向にあり、腰折れる可能性は低いと思われる。一方、消費においては、時間当たり賃金の低迷により一人あたりの実質所得が伸び悩むなかで、政府債務問題を巡る不安心理の影響が懸念されるものの、家計のバランスシート調整の進展、住宅価格や株価の上昇に伴う資産効果もあり消費マインドも高水準で推移していることから、当面底堅い推移が期待される。

【住宅】

住宅市場では、新築および中古住宅の在庫率は、今年初めに2006年以来の水準まで低下した後、ほぼ横ばいで推移しており、足許で需給面からの住宅価格上昇圧力は一服した。足許の在庫率の低さなどを踏まえると、住宅価格が弱含みに転じる可能性は小さいものの、先行き上昇ペースは徐々に鈍化していく可能性が高まりつつある。ただし、米銀の住宅ローンの貸し倒れ償却は着実に減少、モーゲージへの与信スタンスも緩和気味になってきていることから、住宅投資の回復基調は今後も維持されると予測する。

物価

消費者物価(食品とエネルギーを除く)は、2012年後半以降前年比2%程度の安定的な推移を続けていたが、2013年春先より緩やかに低下、足許1%台後半での推移となっている。また、物価判断の指標としてFOMCが注目する個人消費支出(PCE)デフレーター等も、ドル高による輸入物価の低下などを背景に、伸び率が大きく低下し、食料・エネルギーを除いたコアPCEデフレーターは前年比+1.2%と、過去最低水準での推移が継続している。

インフレ先行的に動くISM遅延指数や仕入れ価格のほか、PPI中間財も総じて穏やかな推移となっており、今後も、潜在成長率並みの成長のもとで、個人消費関連物価を中心に、落ち着いた推移が予想される。

【経済予測表】 米国国内総生産(GDP)予測

(%)

	前期比年率								前年比				
	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4 予	2009	2010	2011	2012	2013 予
実質国内総生産	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	2.8	2.2	▲2.8	2.5	1.8	2.8	1.7
個人消費	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	1.5	3.5	▲1.6	2.0	2.5	2.2	2.0
設備投資	5.8	4.5	0.3	9.8	▲4.6	4.7	1.6	4.6	▲15.6	2.5	7.6	7.3	2.2
住宅投資	22.9	5.7	14.2	19.8	12.5	14.2	14.6	10.4	▲21.2	▲2.5	0.5	12.9	14.1
在庫投資 (10億ドル)	8.6	▲32.4	20.4	▲69.9	34.9	14.4	29.4	▲26.0	338.0	▲139.4	▲42.3	71.4	6.3
純輸出 (10億ドル)	▲439.2	▲435.3	▲436.4	▲412.1	▲422.2	▲424.5	▲413.2	▲430.0	▲27.2	20.0	▲0.6	▲9.4	2.5
政府支出	▲1.4	0.3	3.5	▲6.5	▲4.2	▲0.4	0.2	▲0.5	3.7	0.6	▲3.1	▲1.7	17.1
名目国内総生産	5.8	3.0	4.9	1.6	2.8	3.1	4.8	4.2	▲2.1	3.7	3.8	4.6	15.1

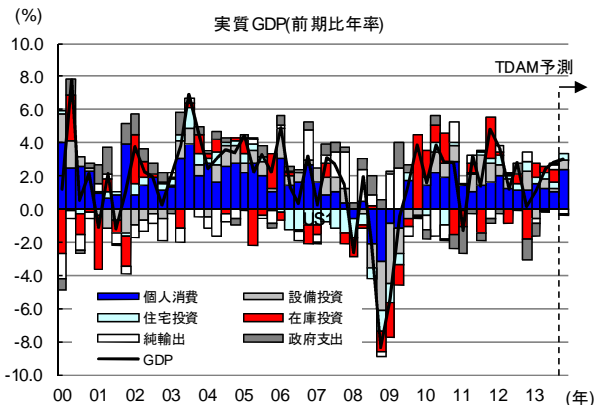
注: 前期比年率欄の在庫投資、純輸出は実額ベース(単位:10億ドル)。

	前年同期比								前年比				
	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4 予	2009	2010	2011	2012	2013 予
実質国内総生産	3.3	2.8	3.1	2.0	1.3	1.6	1.6	2.2	-	-	-	-	-
CPIコア	2.3	2.2	2.0	1.9	1.9	1.6	1.7	1.8	-	-	-	-	-
PCEデフレーターコア	2.0	1.9	1.7	1.6	1.4	1.2	1.2	1.7	1.5	0.9	1.9	1.6	1.7

出所: Bloomberg より TDAM 作成

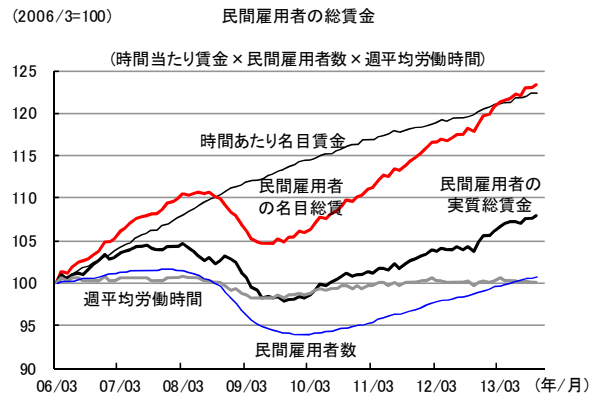
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

GDP は穏やかな内需中心の回復が継続する見通し



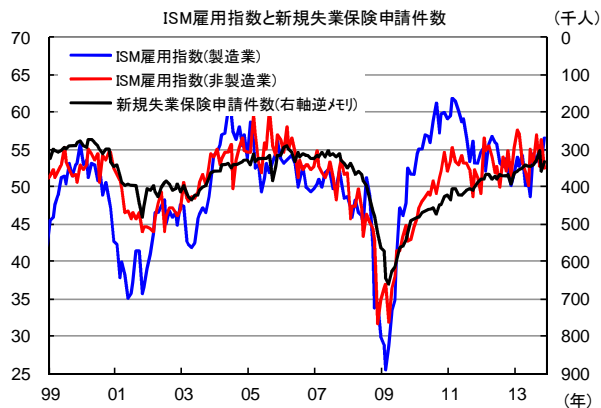
出所: Bloomberg より TDAM 作成

雇用所得環境は穏やかながら改善傾向継続



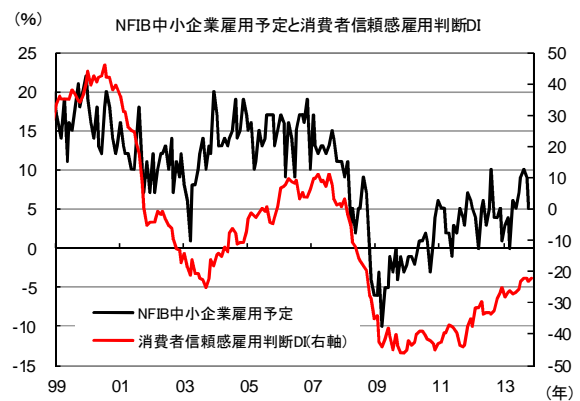
注: 民間雇用の実質総賃金は、名目総賃金を個人消費デフレーターで実質化。未発表の個人消費デフレーターは直近発表値で代用。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

大企業の雇用見通しは依然慎重ながらも回復基調



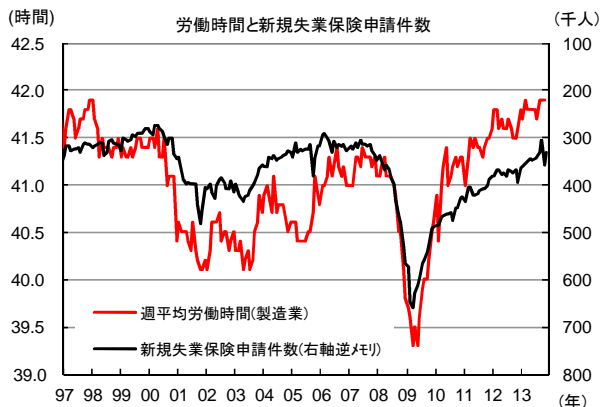
出所: Bloomberg より TDAM 作成

中小企業の雇用予定は振れを伴いながらも回復傾向



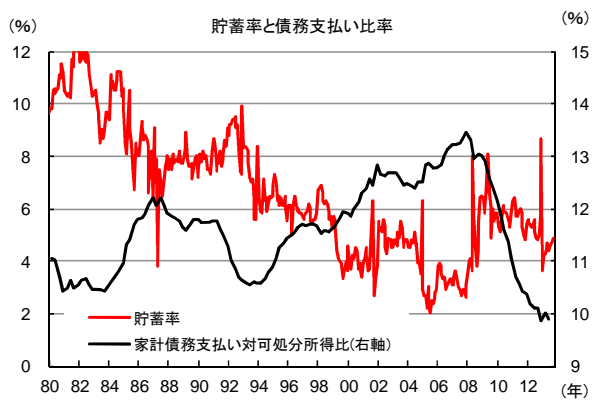
注: NFIB (全米独立企業連盟)
消費者信頼感雇用判断 DI = 職が豊富-職を見つけるのが困難
出所: Bloomberg より TDAM 作成

製造業の労働時間は緩やかながら増加基調



出所: Bloomberg より TDAM 作成

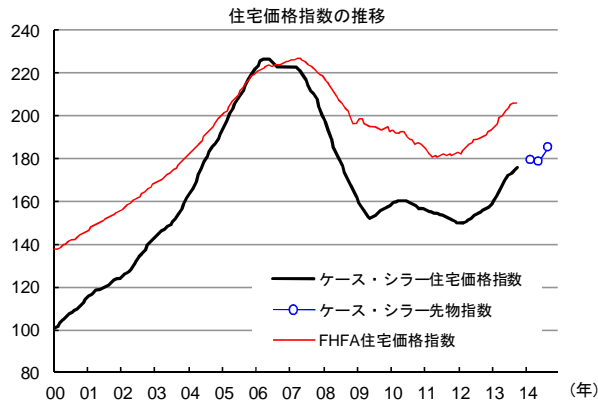
債務支払い比率は引き続き低下傾向



出所: Bloomberg より TDAM 作成

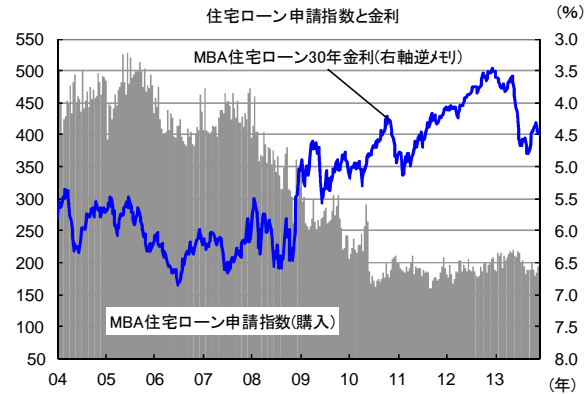
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

先物指数は住宅価格の持ち直しを示唆



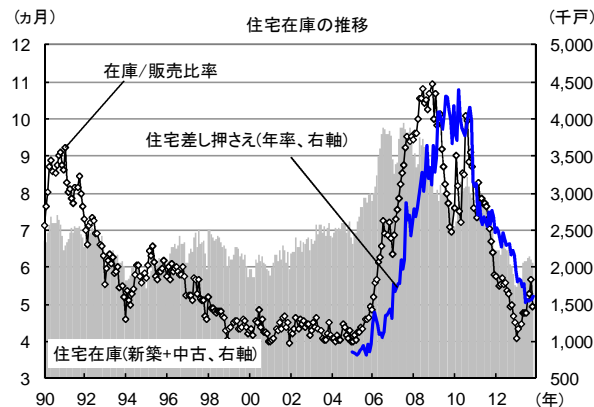
注: FHFA(米連邦住宅金融局)
出所: Bloomberg より TDAM 作成

懸念されるローン金利の上昇の影響



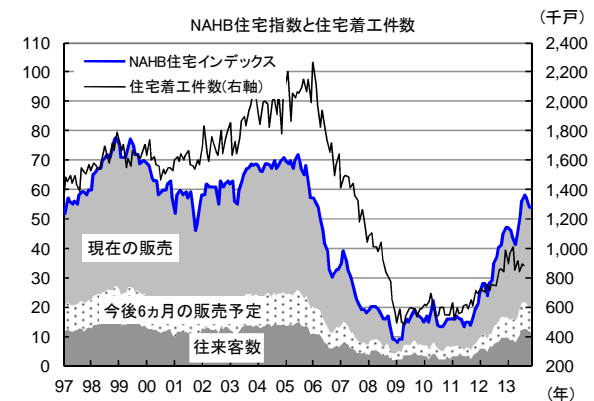
注: MBA(全米抵当貸付銀行協会)
出所: Bloomberg より TDAM 作成

住宅販売の回復を受けて住宅在庫は低水準



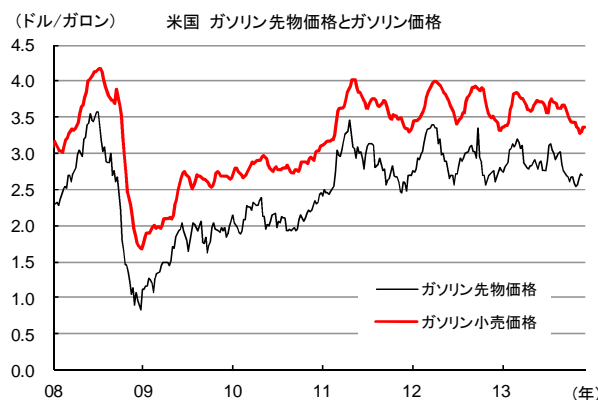
出所: Bloomberg より TDAM 作成

住宅業界の見通しや住宅着工数は改善傾向



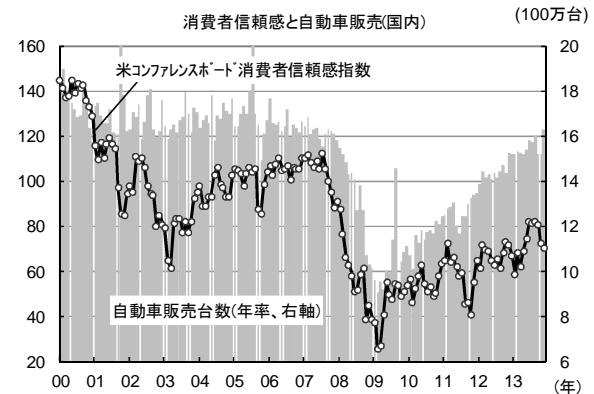
注: NAHB(全米住宅建設業者協会)
出所: Bloomberg より TDAM 作成

懸念されたガソリン小売価格の上昇も一服



出所: Bloomberg より TDAM 作成

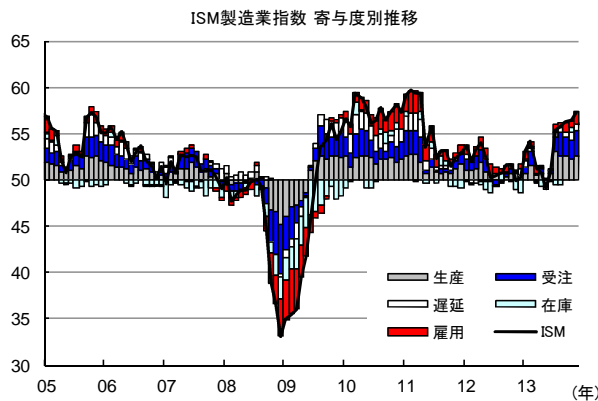
消費マインド底固く、自動車販売も年率150万台以上で推移



注: 米コンファレンス・ボード(全米産業審議会)。米国の経済団体、労働組合などで構成する非営利の民間調査機関。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

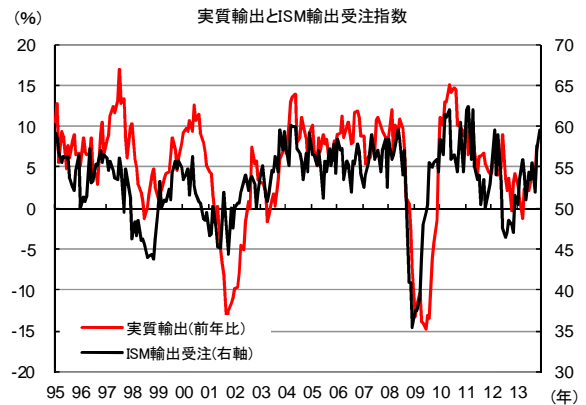
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

製造業景況感は、足許改善傾向継続



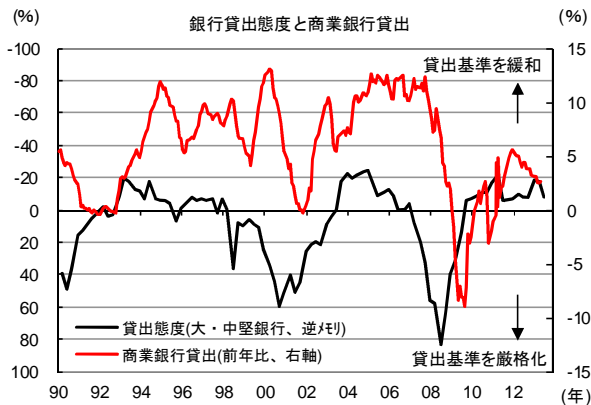
出所: Bloomberg より TDAM 作成

輸出の先行指標は、今後の増加を示唆



出所: Bloomberg より TDAM 作成

銀行貸出態度は緩和基調ながら停滞する



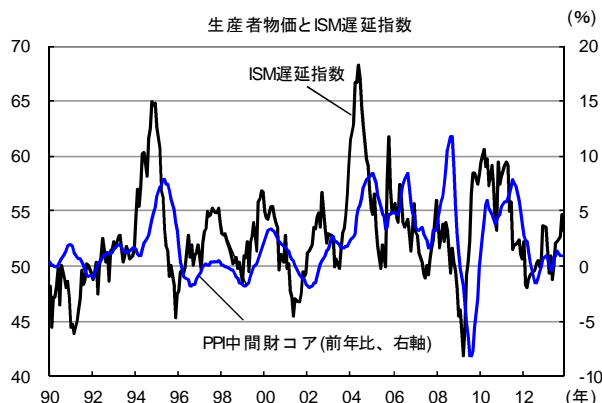
注: 貸出態度は融資基準を厳しくしたと回答した銀行の比率。
出所: FRB より TDAM 作成

設備稼働率の回復は依然緩慢



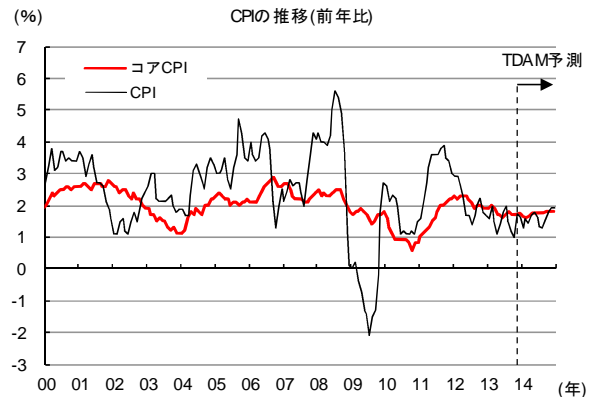
出所: Bloomberg より TDAM 作成

遅延指数は川上のインフレ圧力の落ち着きを示唆



出所: Bloomberg より TDAM 作成

コアインフレ率は2%前後で安定推移する見通し



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

3. 欧州経済

(1) ユーロ圏経済

企業景況感は改善傾向持続、景気は緩やかながら後退局面を脱する見込み。

景気

【企業・生産】

企業部門では、ユーロ圏製造業景況感指数(PMI)は、4月46.7を底に、11月は51.6と持ち直し傾向で、国別にはドイツを中心にイタリアやスペインでも50を超えるなど、底堅く推移している。一方、サービス業も含めた総合の企業景況感も11月51.7と緩やかながら改善基調にあり、リセッションを脱する可能性も高まりつつある。しかし、周辺国を中心とする緊縮財政によりユーロ圏の内需は本格的な回復が見込みにくい一方で、外需においても、主要な輸出先である中国などの景気回復が鈍く、今後はユーロ高の影響も加わるため、ユーロ圏の製造業部門の持ち直しも緩慢なものにとどまると見られる。

【雇用・消費】

雇用環境は、10月のユーロ圏失業率は12.1%(前月:12.2%)で、依然ユーロ圏発足以来のほぼ最悪水準にある。ドイツにおける企業の雇用見通しは製造業中心に改善傾向にあるものの、その域内への波及効果は依然限定的である。

一方、消費マインドは2013年年初から、世界経済の回復期待やユーロ債務問題の落ち着きもあって改善傾向を見せ始めており、今後の個人消費も緩やかながら持ち直しが期待される。

【債務問題等】

ユーロ圏の財政危機の終息に向けて、対策のうち中心となるのは、銀行同盟の具体化や状況が深刻な国々に対する個別国対策である。銀行同盟については、単一の破綻処理機関や基金の創設等を巡って加盟国間で見解の相違は大きく、特に費用負担の面などから依然としてドイツの反対が根強く、欧州委員会が目指す15年1月からの導入に向けた調整には難航が予想されている。

物価

消費者物価は、足許(13年11月)前年比+0.9%と、前月(同+0.7%)からやや持ち直した。食品・飲料・たばこ・エネルギーを除くコア指数も同+1.0%と、前月の同+0.8%から0.2%ポイント上昇した。品目では、エネルギーが▲1.7%→▲1.1%、サービスが同じく+1.2%→+1.5%、とそれぞれ改善し、全体を下支えした。

当面、ユーロ高の影響と、需要の低迷によるコア部分の落ち着きから前年比1%程度での推移が見込まれる。

【経済予測表】 ユーロ圏国内総生産(GDP)予測

(%)

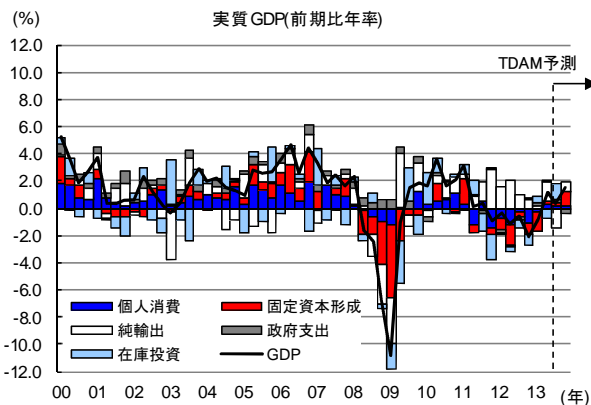
	前年比/前期比							寄与度 前年比/前期比						
	2011年	2012年		2013年予			2011年	2012年		2013年予				
		上期	下期	上期	下期	上期		下期	上期	下期				
実質国内総生産(GDP)	1.7	▲0.7	▲0.3	▲0.5	▲0.4	▲0.3	0.4	1.7	▲0.7	▲0.3	▲0.5	▲0.4	▲0.3	0.4
内需	0.7	▲2.2	▲1.4	▲1.2	▲1.1	▲0.7	0.5	0.7	▲2.2	▲1.3	▲1.1	▲1.0	▲0.6	0.5
消費	0.1	▲1.3	▲0.9	▲0.6	0.1	▲0.3	0.2	0.1	▲0.8	▲0.5	▲0.4	0.1	▲0.2	0.1
政府支出	▲0.1	▲0.5	▲0.3	▲0.3	0.1	0.3	▲0.0	▲0.0	▲0.1	▲0.1	▲0.1	0.0	0.1	▲0.0
民間投資	1.6	▲4.1	▲2.4	▲2.2	▲2.8	▲2.4	1.2	0.3	▲0.8	▲0.5	▲0.4	▲0.5	▲0.4	0.2
在庫投資等	26.4	▲51.3	▲11.1	▲11.2	▲39.9	▲3.2	7.7	0.3	▲0.7	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲0.1	0.2
純輸出	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.6	1.0	0.6	0.6	0.3	▲0.1
輸出	6.5	2.5	1.4	0.9	1.4	▲0.2	2.0	3.0	1.2	0.7	0.4	0.7	▲0.1	1.0
輸入	4.5	▲1.0	▲0.6	▲0.3	0.3	▲0.8	2.4	▲2.0	0.4	0.3	0.1	▲0.1	0.4	▲1.1
消費者物価(前年比)	2.7	2.2	2.4	2.2	1.0	1.6	1.0	-	-	-	-	-	-	-

注:在庫投資は前期(年)差(単位:10億ユーロ)

出所: Bloomberg より TDAM 作成

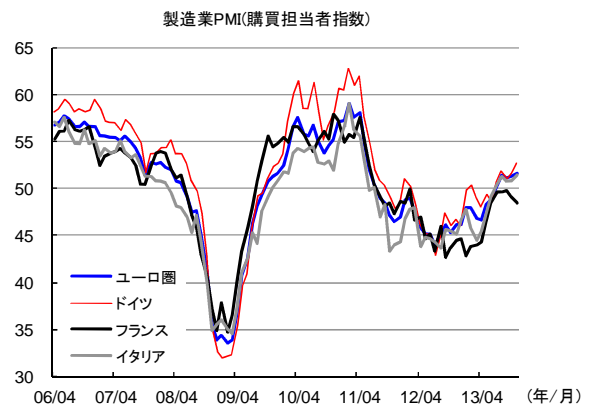
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

ユーロ圏景気は年後半にかけて緩やかに持ち直す見通し



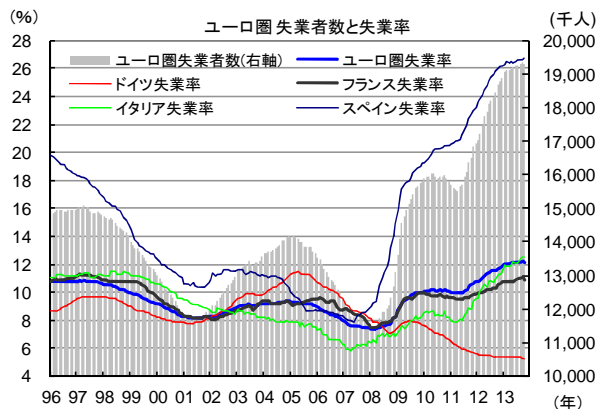
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ圏製造業景況感は足許改善傾向



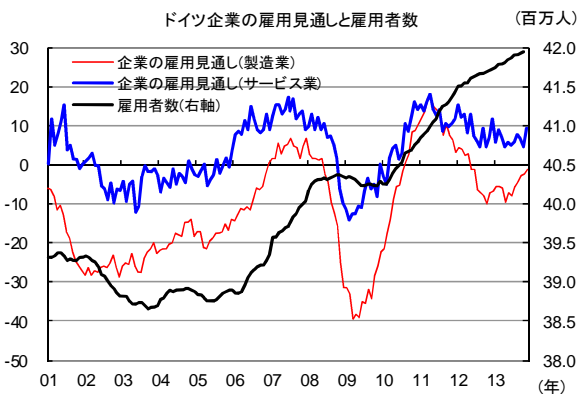
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ圏失業率は依然ほぼ過去最高水準



出所: Bloomberg より TDAM 作成

ドイツ企業の雇用見通しは底堅い推移



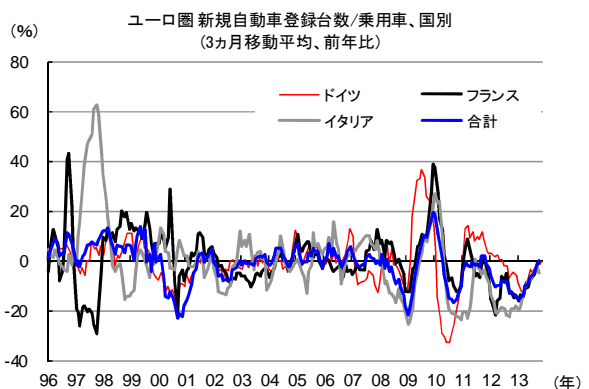
出所: Bloomberg より TDAM 作成

消費マインドは改善傾向で、小売りも持ち直し



出所: Bloomberg より TDAM 作成

自動車販売は、ユーロ圏全体で持ち直し



出所: Bloomberg より TDAM 作成

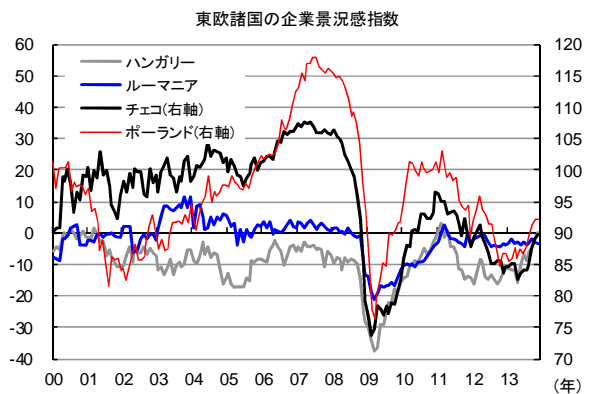
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

ドイツ輸出期待は底堅い推移



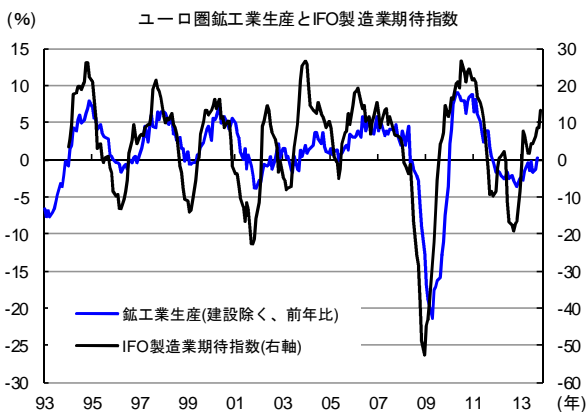
出所: Bloomberg より TDAM 作成

東欧諸国の景況感も改善傾向



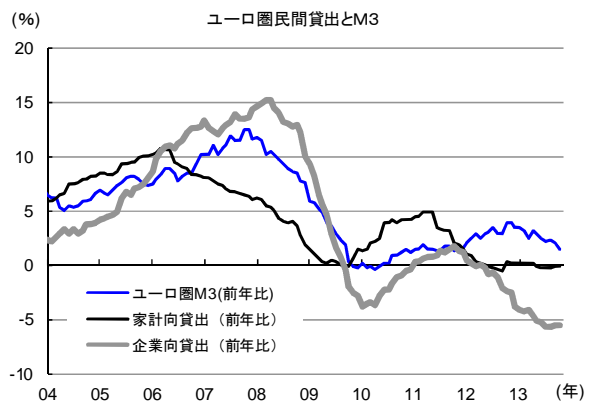
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ドイツ製造業は足許持ち直しの兆し



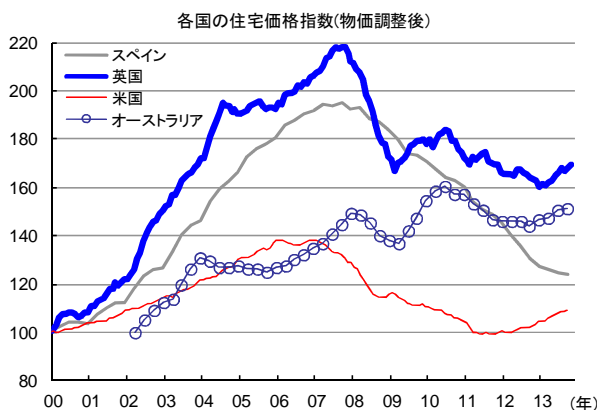
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ圏の貸出残高は企業向け中心に依然低迷



出所: Bloomberg より TDAM 作成

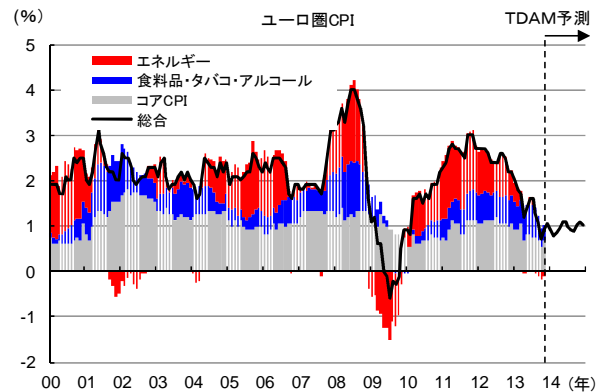
住宅価格はスペインで下落が顕著



注: 各国の消費者物価指数により実質化、1999 年 12 月(オーストラリアは 2002 年 3 月)を 100 として指数化。

出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ圏 CPI は、今後 1%程度での推移を予想

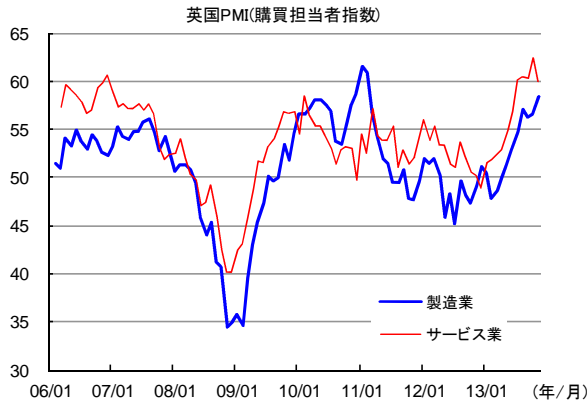


出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

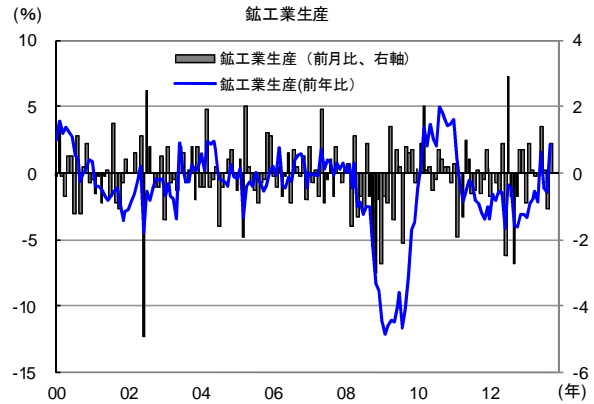
(2) 英国経済

英国景況感は足許改善傾向が明確に



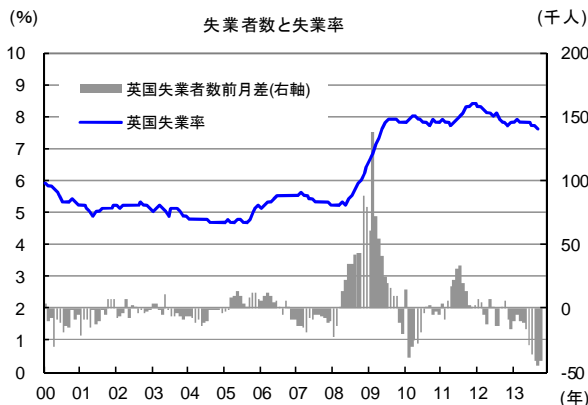
出所: Bloomberg より TDAM 作成

生産は持ち直し傾向



出所: Bloomberg より TDAM 作成

英国失業率は高水準横ばい推移



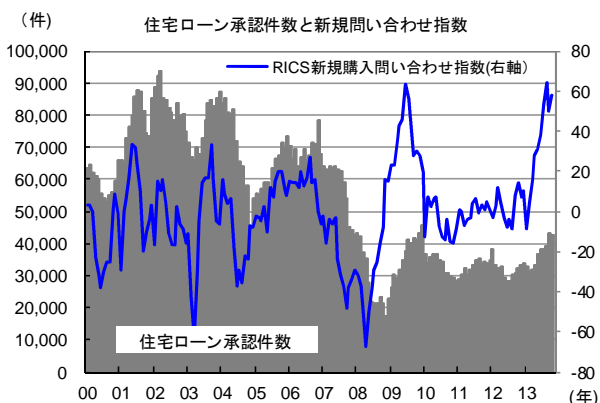
出所: Bloomberg より TDAM 作成

消費者信頼感は低水準も持ち直し傾向



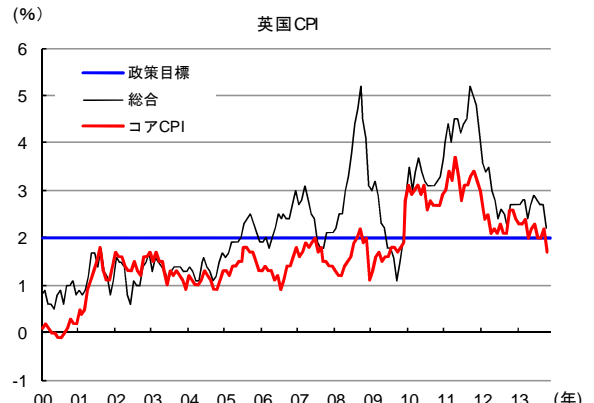
出所: Bloomberg より TDAM 作成

足許、高まりを見せる住宅購入意欲



出所: Bloomberg より TDAM 作成

英国 CPI は足許伸び率鈍化

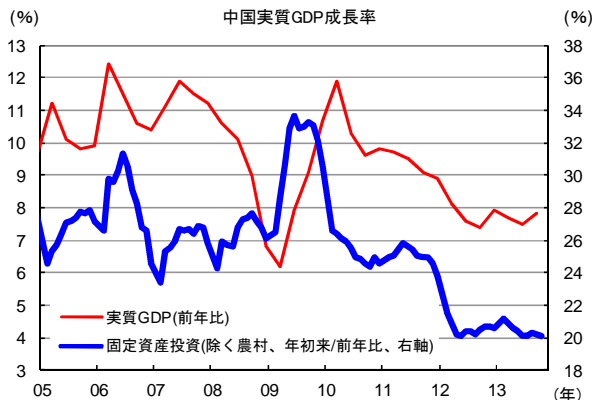


出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

4. (参考) BRICs およびオーストラリア、カナダ経済

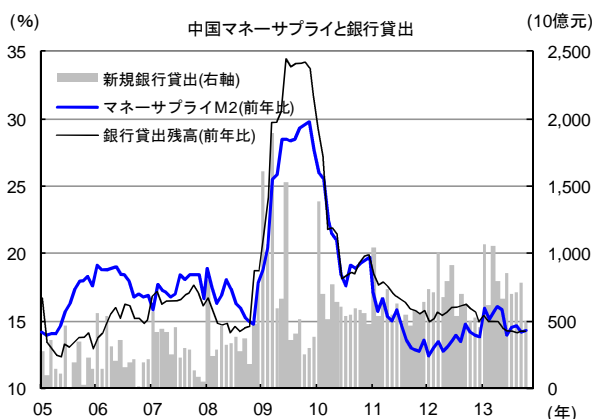
(1) 中国経済および市況関連



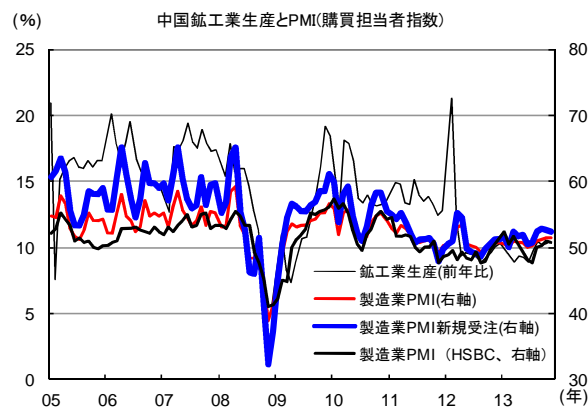
出所: Bloomberg より TDAM 作成



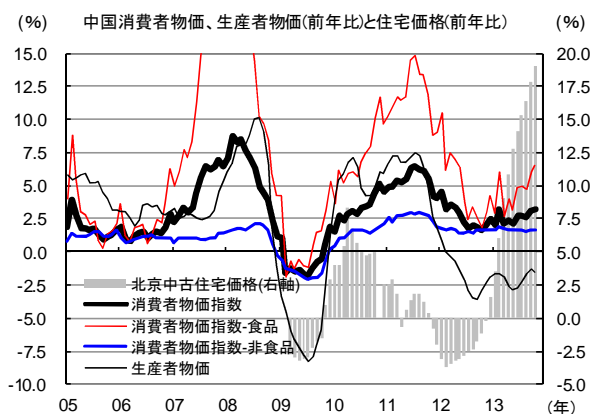
出所: Bloomberg より TDAM 作成



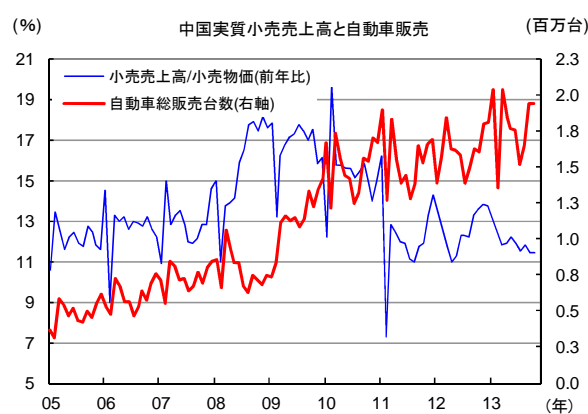
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成

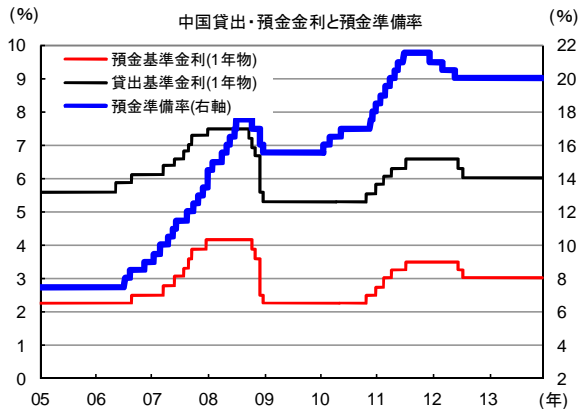


出所: Bloomberg より TDAM 作成

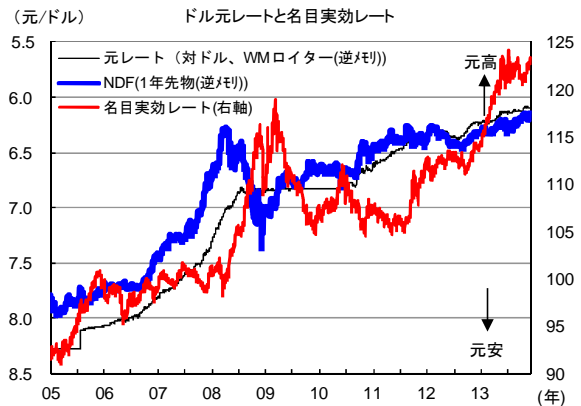


出所: Bloomberg より TDAM 作成

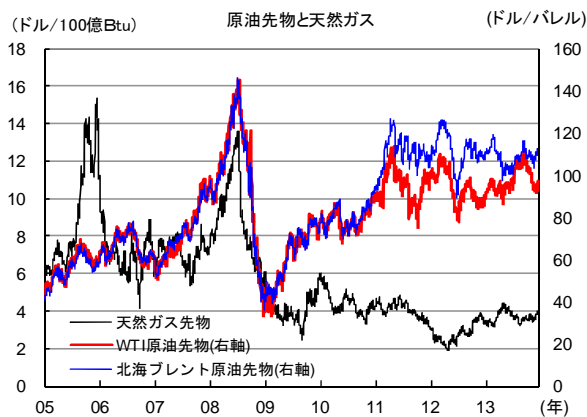
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。



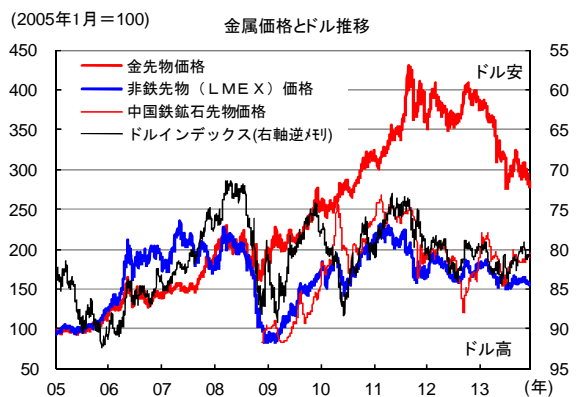
出所: Bloomberg より TDAM 作成



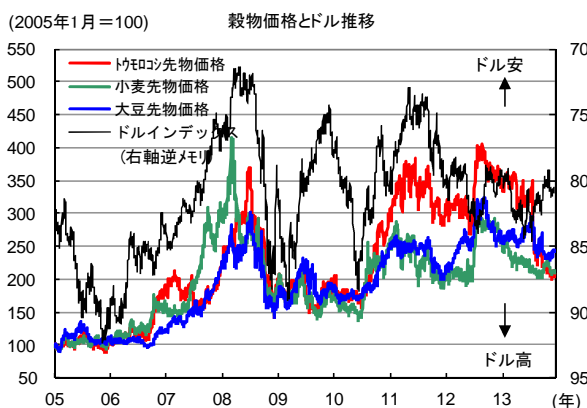
注: NDF(ノン・デリバブルフォワード)とは差金決済の金融派生商品のひとつ。
出所: Bloomberg より TDAM 作成



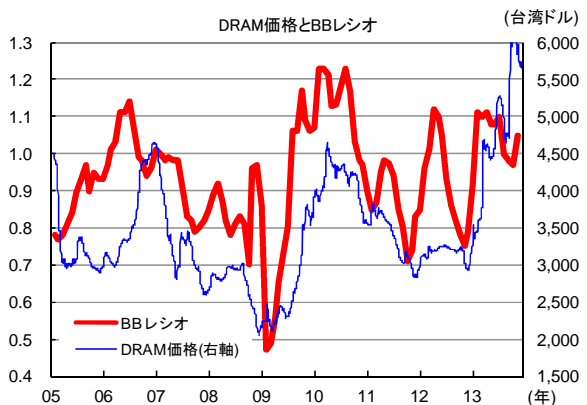
出所: Bloomberg より TDAM 作成



注: ドルインデックスとはドルと主要な国際通貨の為替レートを加重平均して指標化したもの。(比率はユーロ 57.6%、円 13.6%、英ポンド 11.9%、カナダドル 9.1%、スウェーデンクローナ 4.2%、スイスフラン 3.6%。)
出所: Bloomberg より TDAM 作成



注: ドルインデックスとはドルと主要な国際通貨の為替レートを加重平均して指標化したもの。(比率はユーロ 57.6%、円 13.6%、英ポンド 11.9%、カナダドル 9.1%、スウェーデンクローナ 4.2%、スイスフラン 3.6%。)
出所: Bloomberg より TDAM 作成



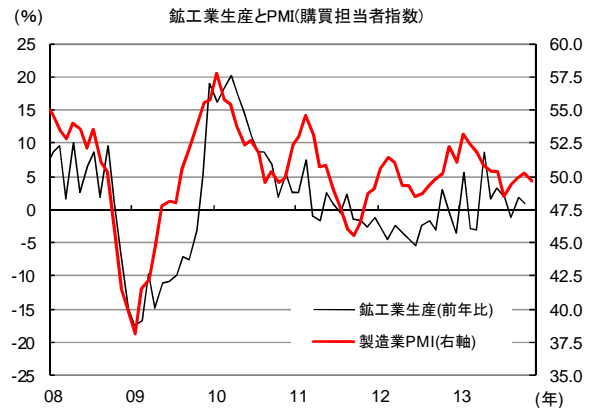
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

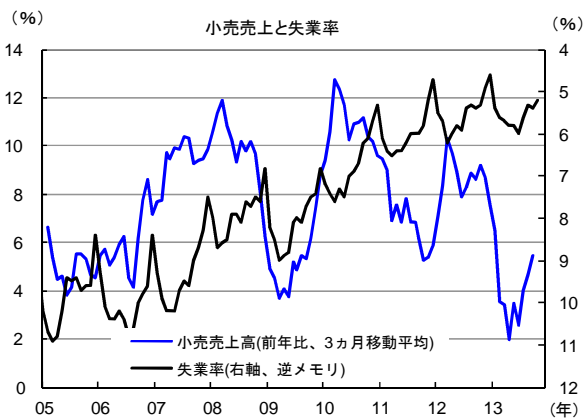
(2) ブラジル経済



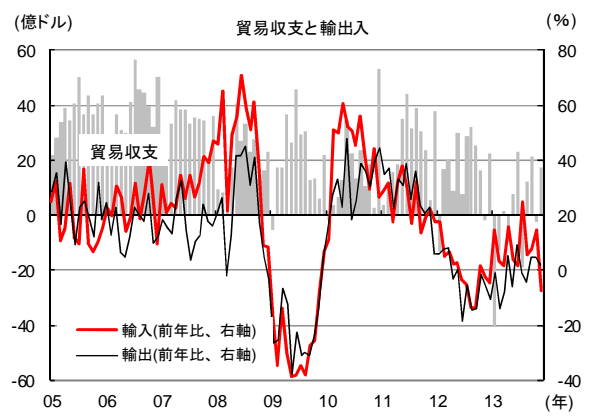
出所: Bloomberg より TDAM 作成



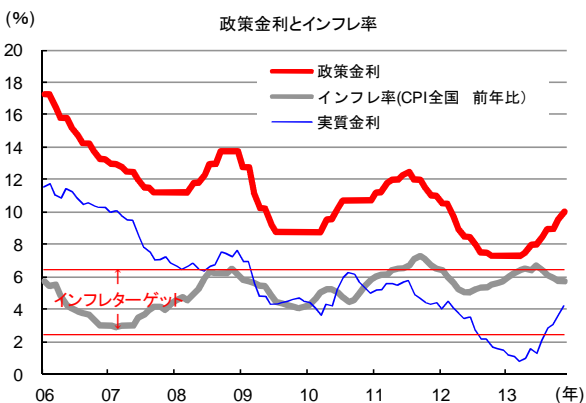
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



注: 実質金利=政策金利-インフレ率

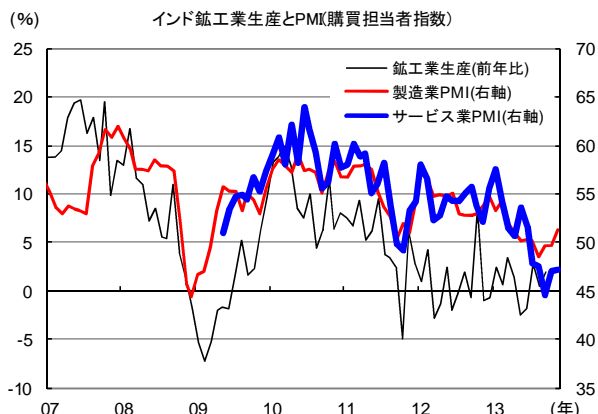
出所: Bloomberg より TDAM 作成



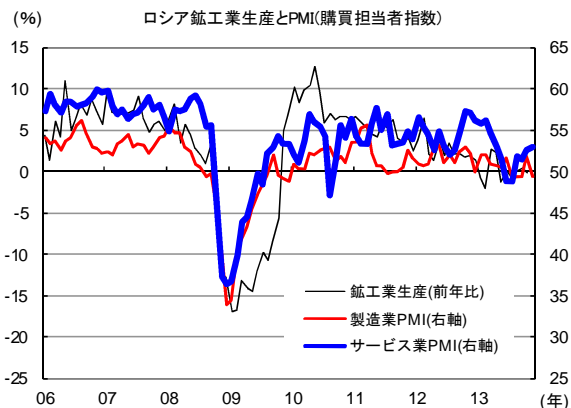
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

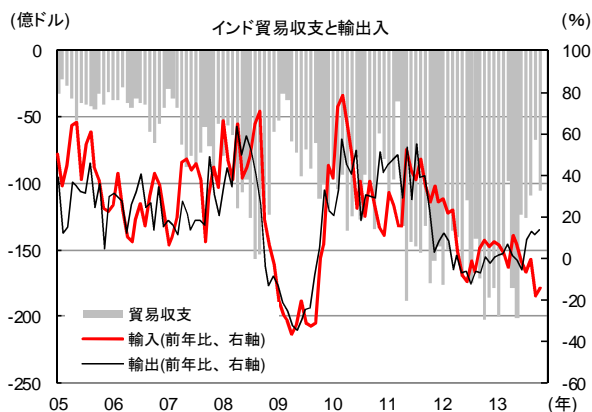
(3) インド経済・ロシア経済



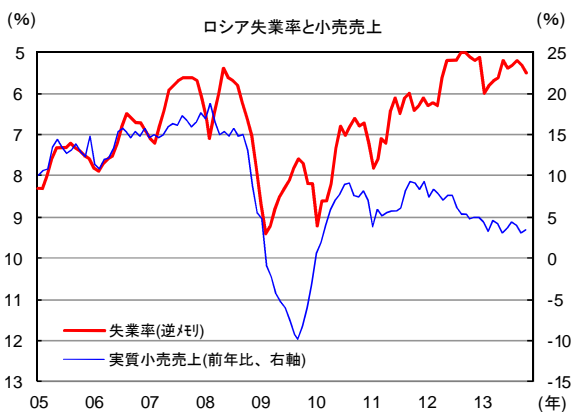
出所: Bloomberg より TDAM 作成



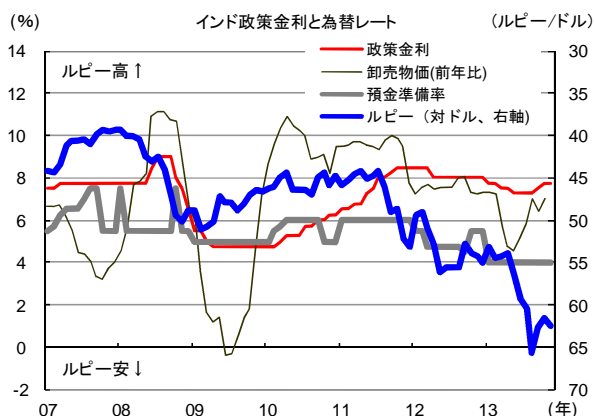
出所: Bloomberg より TDAM 作成



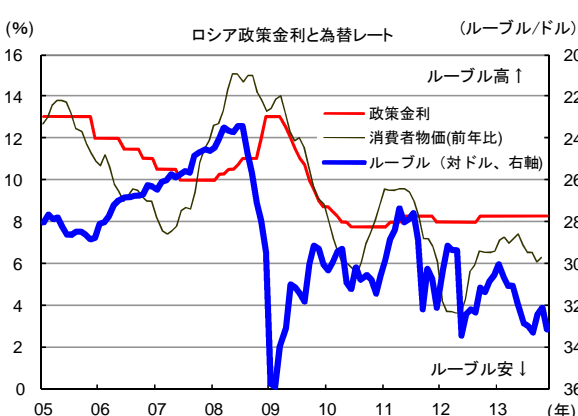
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



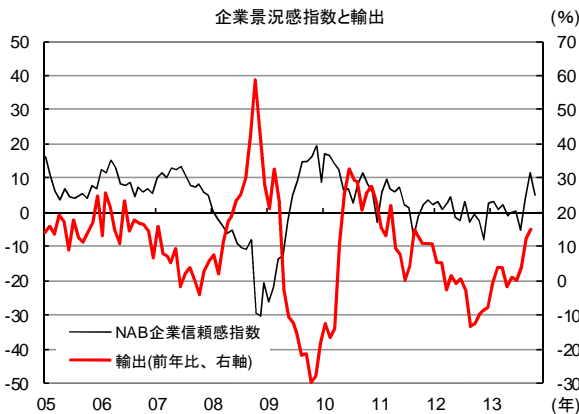
出所: Bloomberg より TDAM 作成



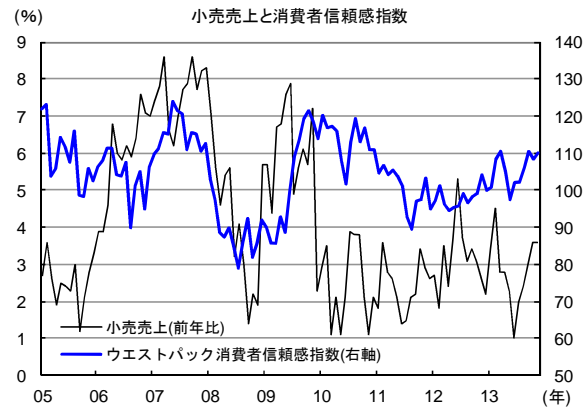
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

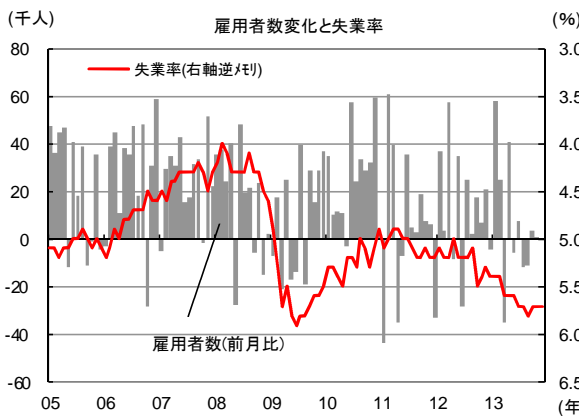
(4) オーストラリア経済



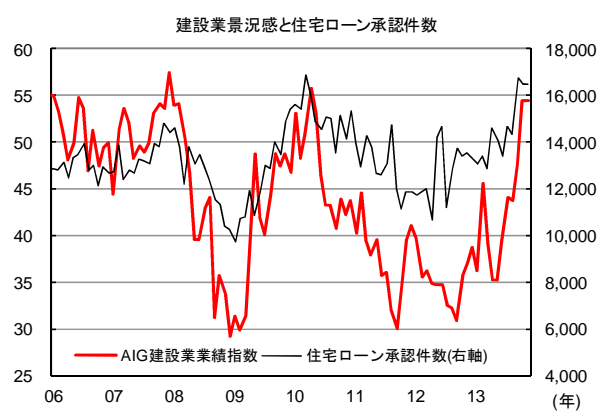
出所: Bloomberg より TDAM 作成



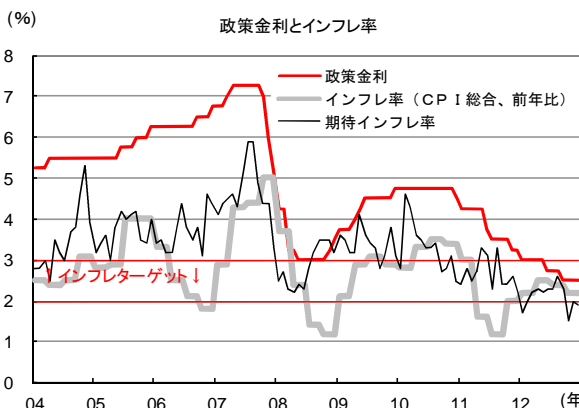
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



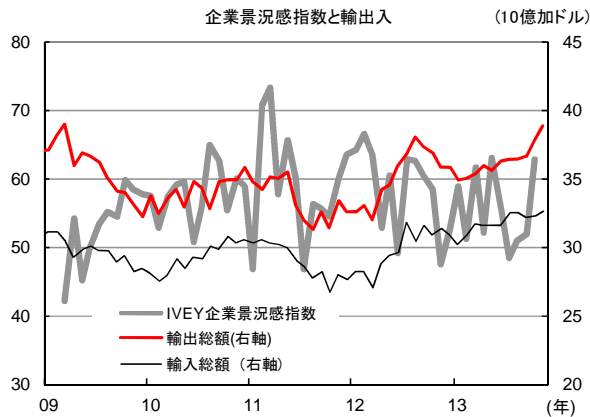
出所: Bloomberg より TDAM 作成



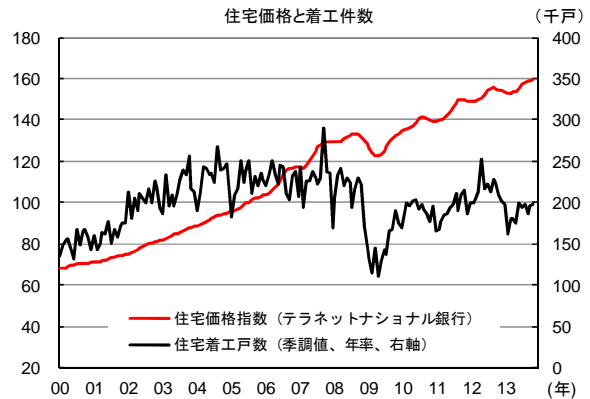
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

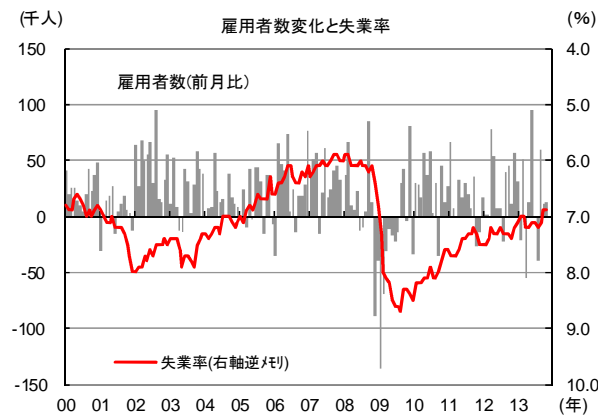
(5) カナダ経済



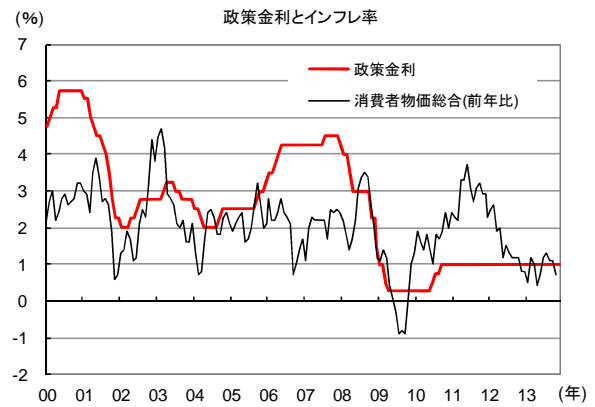
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



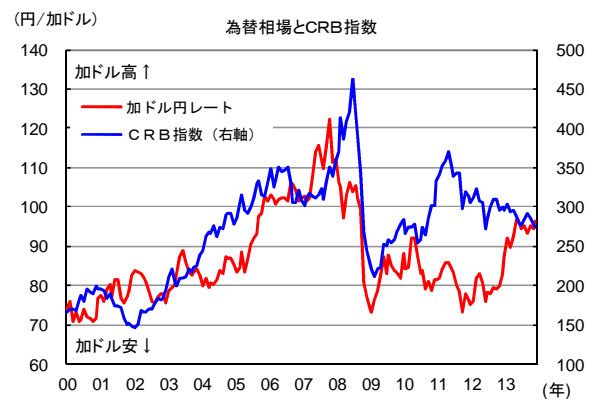
出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

市場見通し

1. 債券

1-1. 国内債券

長期金利は、現行の低水準での推移が継続。

○ 金融政策について

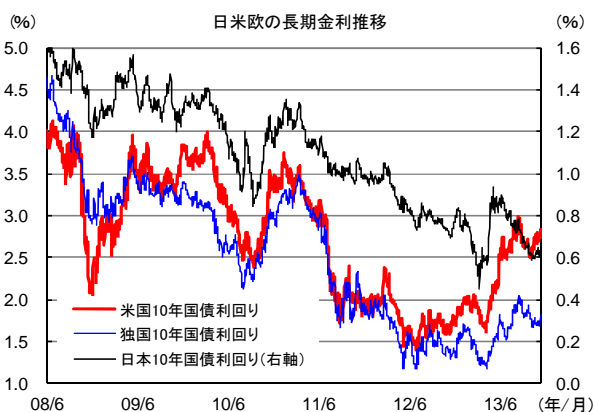
日銀は、11月21日に金融政策決定会合を開催し、金融政策の現状維持を決定した。今後もマネタリーベースが年間60～70兆円に相当するペースで増加するよう、国債等の資産買入れを継続する。4月に開催された黒田新総裁の下での初の会合では、異次元の金融緩和と呼ばれた「量的・質的金融緩和」の導入を決定し、2年程度の期間を目途に2%の物価安定目標の達成を目指すことを打ち出したが、その後は様子見スタンスに転じている。今後については、当面は更なる追加緩和は見送られる見込みながら、インフレ目標の達成は容易ではないことから今後断続的に金融緩和スタンスの強化(マネタリーベースの更なる拡大、リスク性資産の購入増額、超過準備に対する付利の撤廃等)や現行のマネタリーベース増加の期間延長などを迫られる可能性が大きいと思われる。

○ 長期金利

国内景気は、当面、海外景気の持ち直しと補正予算などの政策に下支えされながら自律的な回復を模索するものの、国内民間需要の基調は脆弱で、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は小さいものと思われる。

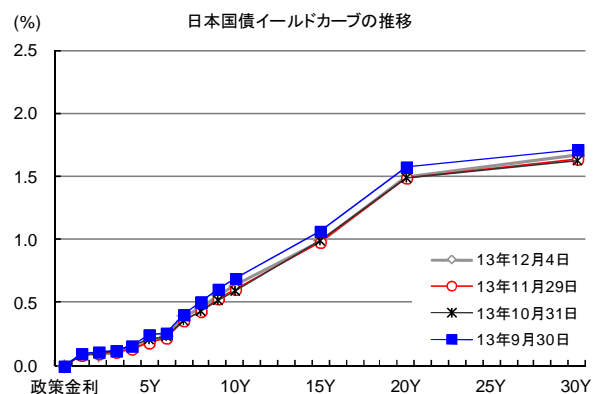
こうした中、今後も、日銀の国債買入れによる金利抑制要因と、QE3の縮小観測等に伴う米長期金利上昇という金利上昇圧力が並存する形で、現行の1%以下の低水準レンジ内で推移する見通しである。

主要国金利は米国量的緩和縮小時期の観測等で変動



出所: Bloomberg より TDAM 作成

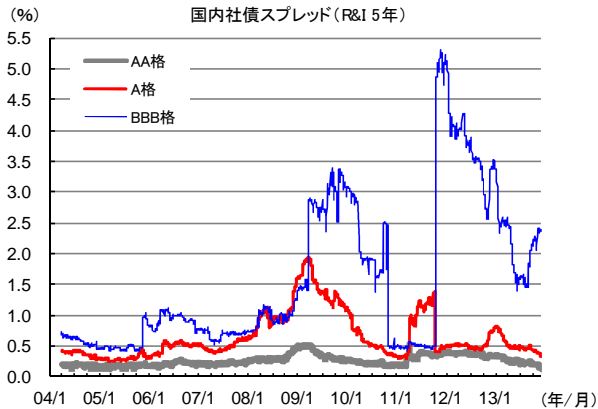
国内長期金利は 6 月以降総じて落ち着いた推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

社債スプレッドは A 格は縮小、BBB 格は拡大



出所: Bloomberg より TDAM 作成

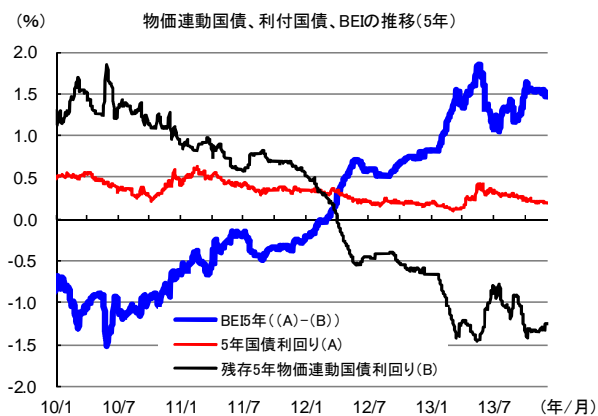
市場は政策金利(0~0.1%)の長期据え置きを予想



注: OIS(オーバーナイトインデックススワップ)の略。市場参加者の政策金利予想を反映している。

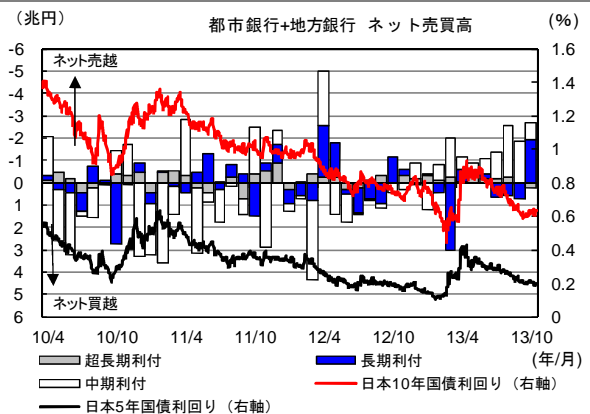
出所: Bloomberg より TDAM 作成

期待インフレ(BEI)は 1%台で推移



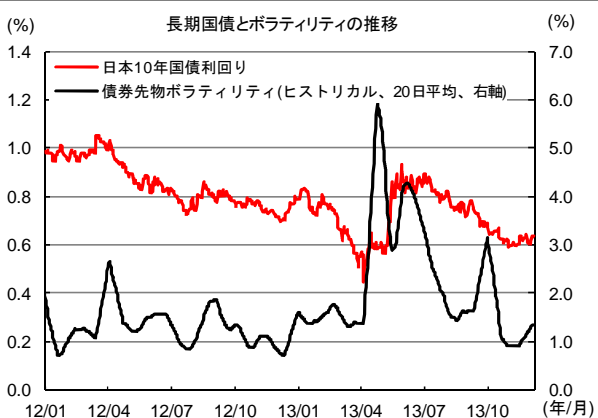
出所: Bloomberg より TDAM 作成

銀行は 4 カ月ぶりに長期債を売り越し



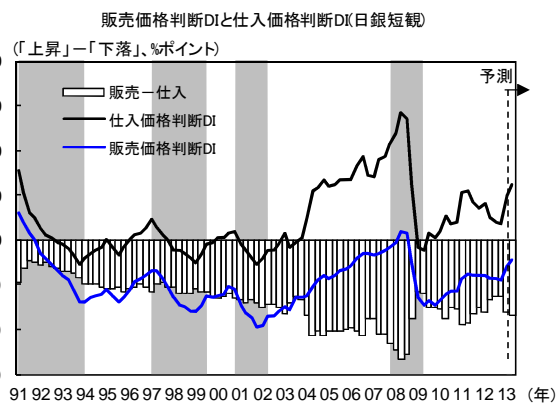
出所: 日本証券業協会、Bloomberg より TDAM 作成

国内債券のボラティリティは、低水準で推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

足許仕入価格判断 DI、販売価格判断 DI ともに上昇、交易条件は悪化



注: グレー部分は景気後退期をあらわす。
出所: 日本銀行、Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

1-2. 米国債券

長期金利は、上ぶれしやすい展開ながら、リスク要因等から上昇は緩やか。

○ 金融政策について

10月末のFOMC(連邦公開市場委員会)の議事録によると、「会合では、金融政策の中期的な道筋に関する幅広い議論が行われ、QE3の規模縮小に関して、会合参加者は、総じて、「経済データは、労働市場の改善に関する委員会の見通しと整合的であり、ここ数か月で購入ペースの縮小を正当化できるだろう」との見通しを示した。」とのことである。

財政協議の難航から、FRBの資産買い入れの縮小は年明け以降にずれ込む可能性が高いと予想されるが、財政協議(暫定予算と債務上限の引き上げ)が1月に暫定的にでも合意に至れば緩和縮小開始は時間の問題と思われる。ただし、デフインフレ下で、バランスシートの規模縮小や実質ゼロ金利政策の解除は当面見通せず、極めて緩和的な政策スタンスを維持する方向と見られる。

○ 長期金利

米国経済は、超緩和的な金融政策の下で住宅や耐久財消費中心の回復に加え、企業景況感も製造業中心に改善し、自律的な回復傾向を強めている。FRBは、こうした経済指標を受けて、年明け以降の量的緩和の縮小に着手する見込みであり、長期金利も当面上ぶれしやすい展開が見込まれる。

ただし、インフレ圧力の落ち着きに加え、住宅ローン金利の上昇の影響や、財政政策をめぐる先行きの不透明感から、状況に応じてFRBによる過度な金利上昇の抑制を目的とした資産買い入れの縮小ペースや失業率の数値基準の引き下げの可能性も見込まれることもあり、今後の金利上昇ペースも緩やかなものにとどまると思われる。

1-3. ユーロ圏債券

ドイツの長期金利は、米国に連動し上ぶれしやすいものの、上昇余地も限定的。

○ 金融政策について

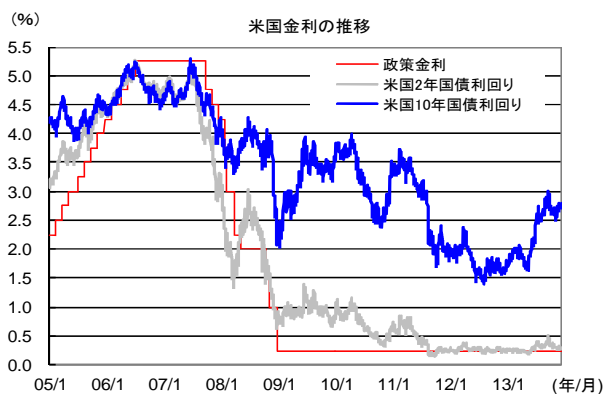
欧州中央銀行(ECB)は、12月5日の定例理事会で、大方の予想通りに政策金利を据え置いた。前月の理事会では10月の消費者物価インフレ率が前年比+0.7%まで低下し、デフインフレの長期化が懸念される状況になったことを主因にリファイナンス金利を25bp下げる等の利下げを実施したが、11月のインフレ率は+0.9%まで反発、同月の景況感サーベイ等も概ね堅調だったことで、市場においても金利据え置きが予想されていた。ドラギ総裁の会見では低インフレ長期化の危険性に注意を促した上で、「全ての利用可能な施策を検討する用意がある」「フォワード・ガイダンスの枠内で行動する用意も能力もある」などと述べ、必要に応じて追加策を取っていく姿勢が改めて強調された。

○ 長期金利

米国経済は、超緩和的な金融政策の下で自律的な回復傾向を強めており、FRBも年明け以降の量的緩和の縮小に着手する見込みであり、米国長期金利も当面上ぶれしやすい展開が見込まれる。

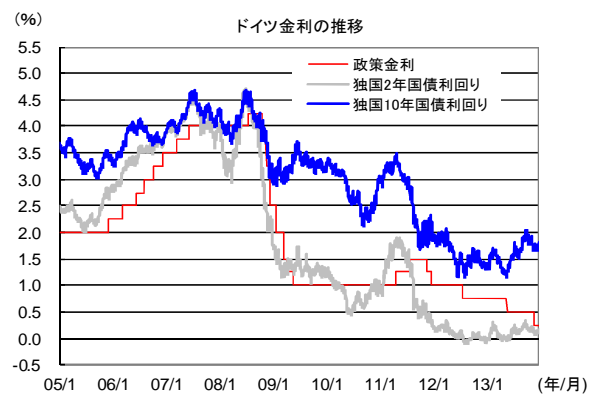
ドイツの長期金利は、欧州債務問題の落ち着きや域内景気の持ち直しに伴い、準コア国やイタリア、スペイン国債への選好が強まり、低下余地は限定的となる一方で、ECBのガイダンス効果や、インフレの落ち着きに加え、銀行監督一元化を控えたバランスシート調整圧力の高まりなどが引き続き金利上昇の抑制要因となると思われる。当面、米国に連動し上ぶれしやすいものの、上昇余地も限定的と思われる。

(米国) 10年債は足許 2%台後半で推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

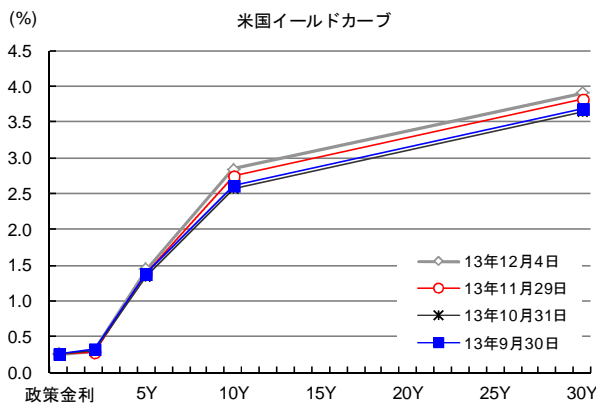
(ドイツ) 10年債は足許 1%台後半で推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

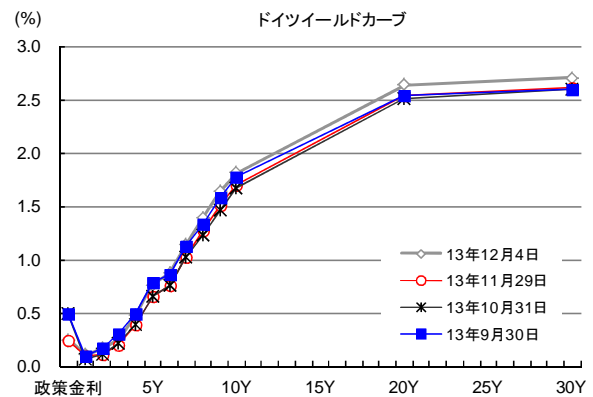
【ご留意事項】 本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

(米国) 足許、イールドカーブは長期ゾーン中心に上昇



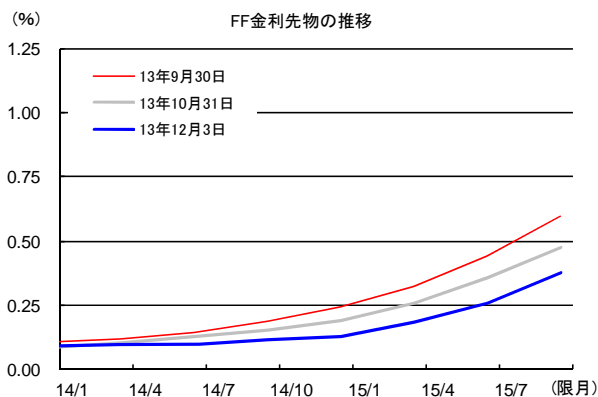
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ドイツ) 足許、イールドカーブは長期ゾーン中心に上昇



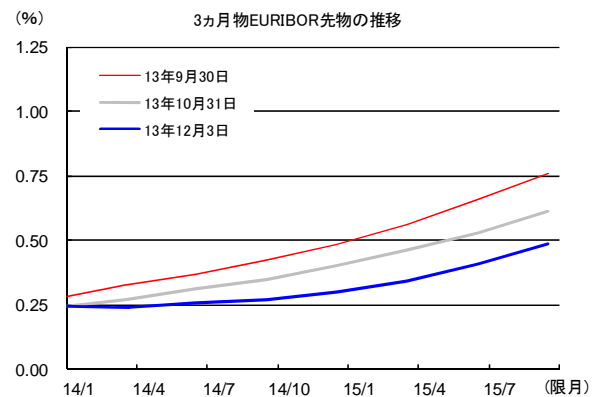
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 利上げ開始時期の見通しは 2015 年前半から後半へ



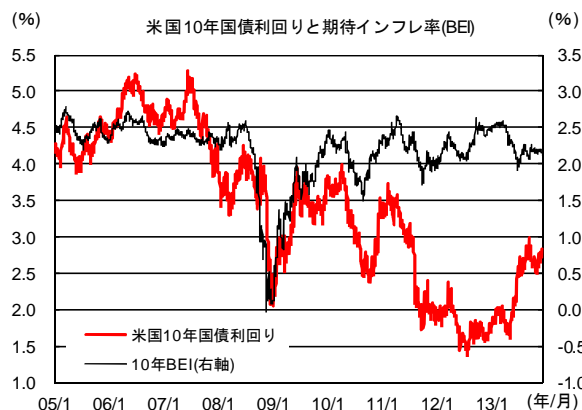
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ユーロ圏) 利上げ開始時期の見通しは 2015 年後半以降へ



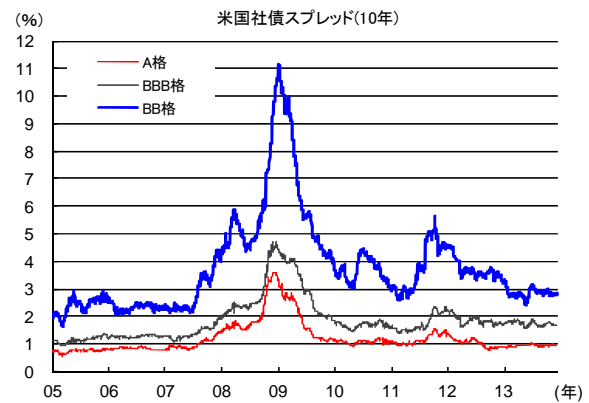
注: EONIA はユーロ圏無担保翌日物平均金利でユーロ圏の短期指標金利。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 長期金利と期待インフレ率(BEI)の連動性は低下



出所: Bloomberg より TDAM 作成

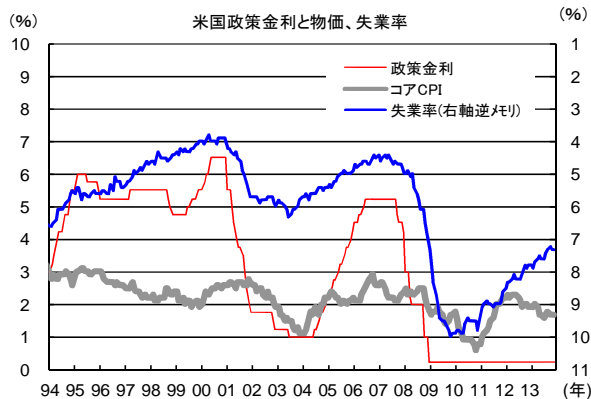
(米国) 社債スプレッドは足許、落ち着いた推移



出所: Bloomberg より TDAM 作成

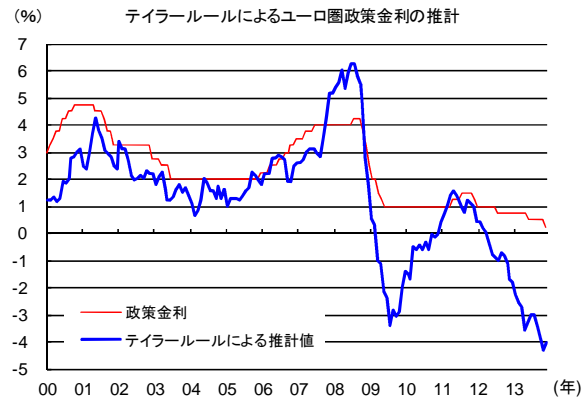
【ご留意事項】 本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

(米国) 失業率は改善も依然高水準



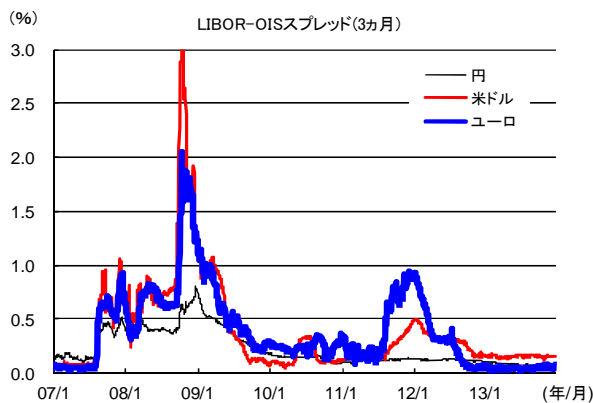
出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ユーロ圏) CPI 低下と失業率悪化で、テイラールールは利下げを示唆



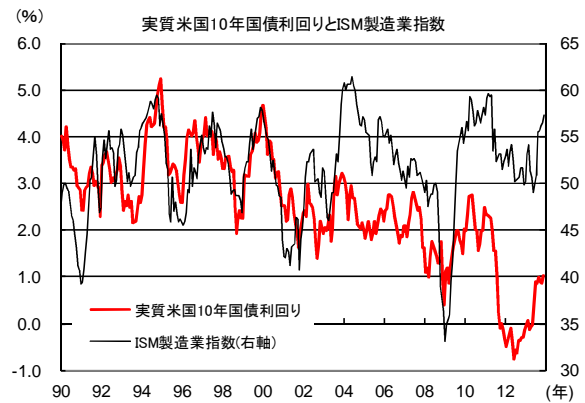
注: 推計値=均衡実質短期金利+インフレ率+ α (インフレ率-目標インフレ率)+ β (NAIRU-失業率)
 均衡実質短期金利=2%、インフレ率=ユーロ圏 HICP、目標インフレ率=2%、
 NAIRU=7%、失業率=ユーロ圏失業率を用いて推計
 出所: Bloomberg より TDAM 作成

金融機関の調達コストは安定推移



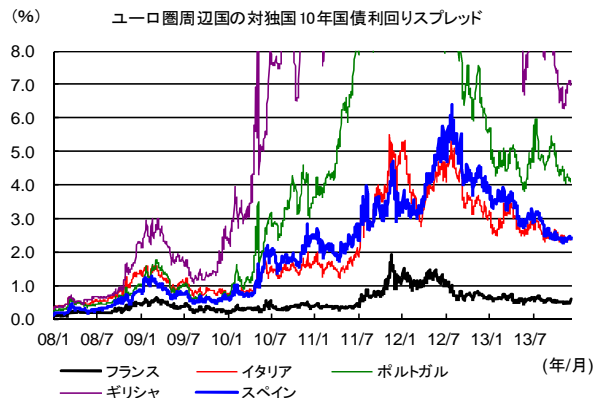
注: LIBOR(ロンドン銀行間取引金利)OIS(オーバーナイトインデックススワップの略。市場参加者の政策金利予想を反映している。)
 出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 景況感の改善が金利上昇の一つの要因



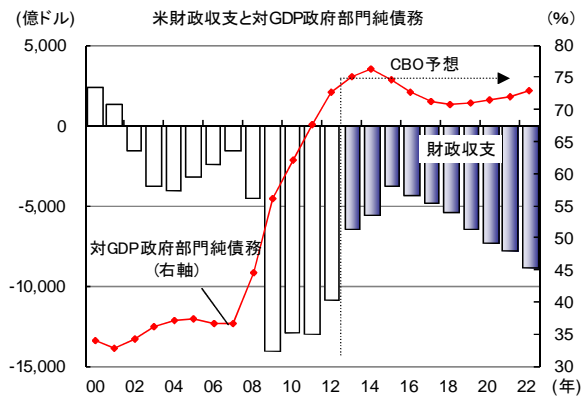
注: 実質米国10年国債利回りは、コアCPIで実質化。
 出所: Bloomberg より TDAM 作成

(ユーロ圏) イタリア、スペインの10年対独スプレッドは2012年後半以降総じて縮小傾向



出所: Bloomberg より TDAM 作成

(米国) 2013(財政)年度は財政赤字が急速に縮小する見込み



注: 2013年度以降はCBO(議会予算局)の予想
 出所: Bloomberg、CBO資料より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2. 株式

2-1. 国内株式

米量的緩和縮小や政府債務問題への懸念などで上値の重い展開ながら上昇基調を維持。

[需給動向]

国内株価の方向性に強い影響力を持つ外国人投資家は、2012年10月から買い越しに転じ、2013年7月までで10ヵ月連続の買い越しとなり、買い越し金額は11兆円を超えた。8月は、米量的緩和縮小への根強い懸念とシリア情勢の緊迫化などから、1,200億円程度の売り越しとなったが、9月以降は再び買い越し基調となり、11月は2兆3,000億円程度の買い越しとなった。

[バリュエーション]

東証一部市場全体のPBRは1.41倍、PERも、12ヵ月先予想ベースで14.7倍程度、配当利回りと10年国債利回り差は1.08%程度。2012年後半以降、予想PER中心に割安感は後退しつつあるものの、過去比較では依然割安な水準。(数値は11月29日現在)

[業績動向]

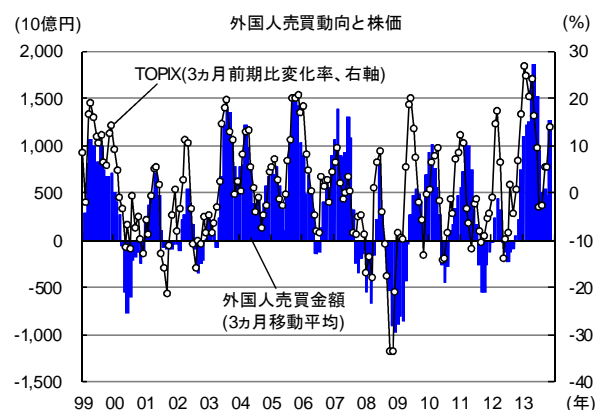
13年度の会社予想においては、東証一部企業(除く金融)の経常利益で前年比+34%程度が見込まれている。(一方、当社モデルでは、13年度の生産を12年度比+2.5%程度として、経常利益を概算すると20%~40%程度の増益が見込まれる。)

[株価見通し]

米国経済においては、財政協議の難航による影響が懸念されたものの、緩和的な金融政策のもとで、住宅市場の回復や家計のバランスシート調整の進展により消費が底堅く推移する中、企業部門の景況感も高水準を維持している。また、緩やかながらも欧州の企業景況感が改善基調を維持する一方、弱含みだった中国を始めアジア各国や新興国の景況感も持ち直しの兆しを見せており、こうした海外景気の改善を受けて、国内経済も回復基調での推移が期待される。

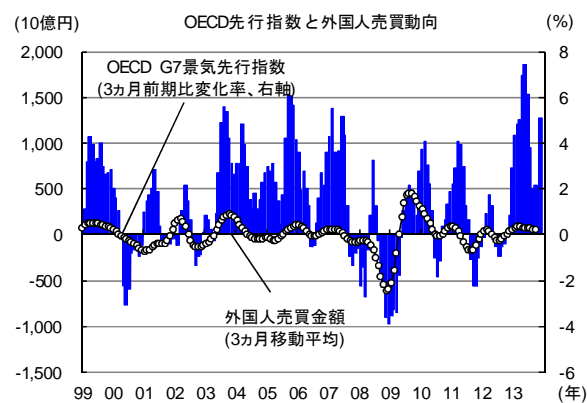
当面は、米国の金融緩和策縮小に伴う世界的な過剰流動性の縮小、新年度予算や政府債務の上限などの財政問題が懸念材料となるものの、世界景気の回復基調は米国の内需を中心に緩慢ながら維持されることから、国内株価も上昇基調を維持する見通しである。

株価は外国人投資家の売買動向と密接な関連性



出所: 東京証券取引所、Bloomberg より TDAM 作成

2012 年 10 月以降、外国人投資家は買い越し基調継続



出所: 東京証券取引所、Bloomberg より TDAM 作成

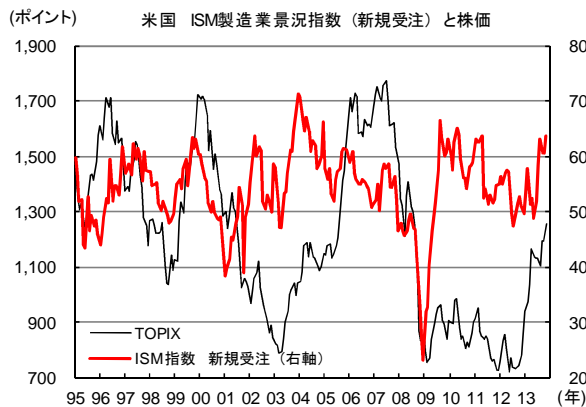
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

CDS スプレッドは足許落ち着いた推移



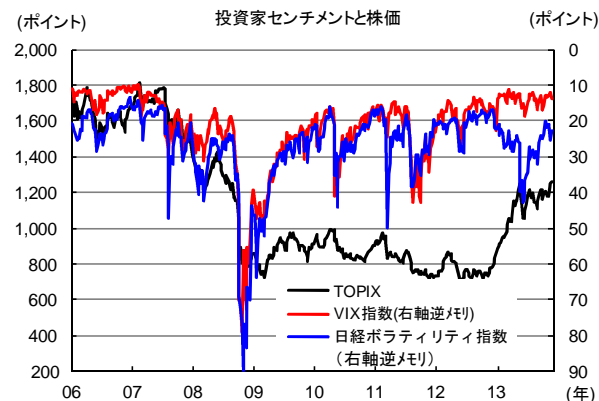
注: CDX 指数とは、企業の信用リスクを取引するクレジット・デフォルト・スワップ(CDS)市場において、北米の投資適格企業 125 社によって構成されている指数。
出所: 東京証券取引所、Bloomberg より TDAM 作成

株価と相関の高い米国 ISM(新規受注)は足許 50 を上回って推移



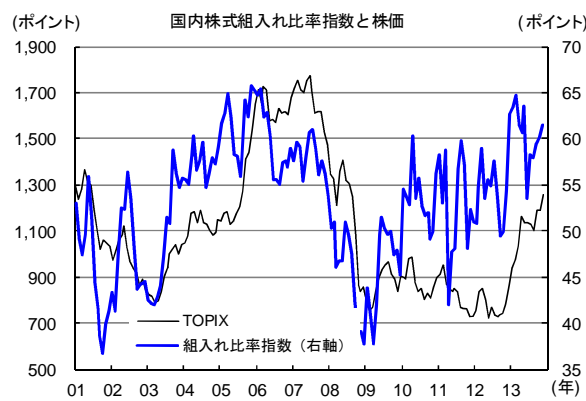
出所: Bloomberg より TDAM 作成

足許、日経ボラティリティ指数は VIX 指数との乖離を縮小



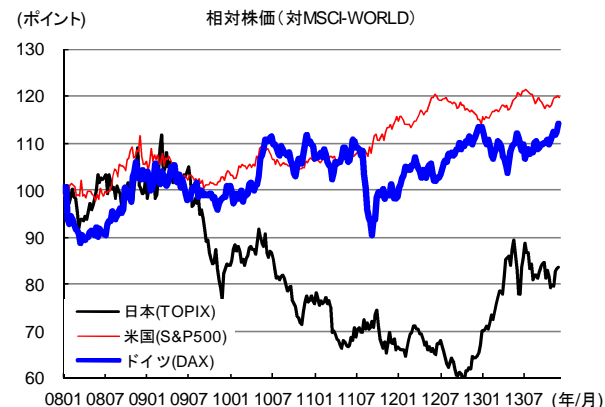
注: VIX 指数とは、CBOE(シカゴ・オプション取引所)が公表する指標で、ボラティリティインデックスの略称。投資家心理を示す指標として利用され、上昇すれば投資家心理が悪化したことを示す。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

機関投資家の株式組入れ比率は足許高水準



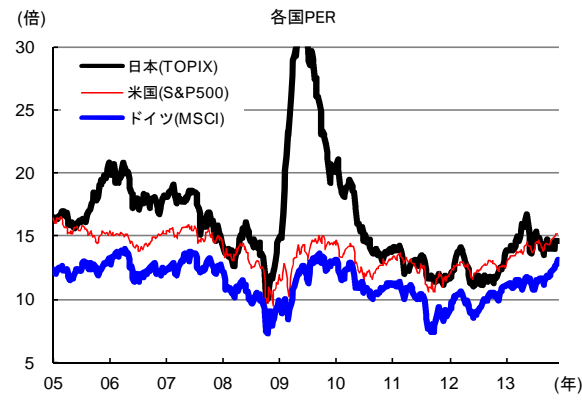
注: 組入れ比率指数は、Quick が機関投資家に対して行ったアンケートをもとに現在の国内株式組入れ比率を指数化したもの。50 が中立を示す。
出所: Quick(QSS レポート)より TDAM 作成

日本の相対株価は昨年後半以降、回復基調



注: 2007年12月末を100として指数化した。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

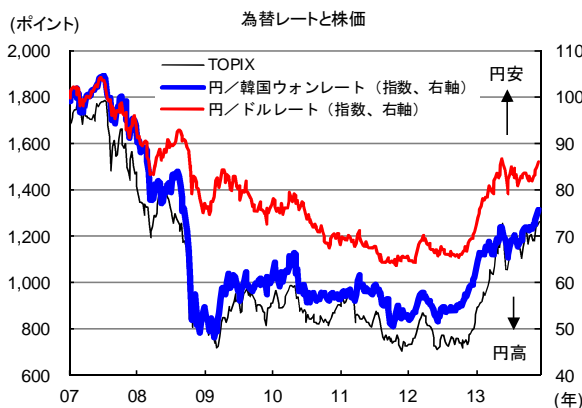
各国 PER は、日本株中心に緩やかな上昇傾向



注: 各国 PER は、12 カ月先予想ベース。
出所: 東京証券取引所、ドイツ証券取引所、スタンダード・アンド・プアーズ、MSCI、FACTSET、Bloomberg より TDAM 作成

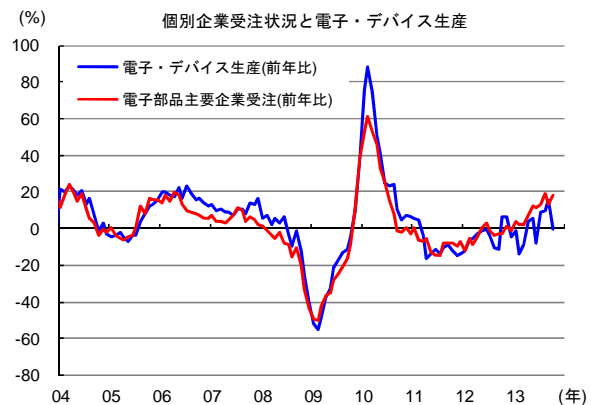
【ご留意事項】 本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

ドル、ウォンレートと株価の間には高い相関



注: 為替レートは 2006 年末を 100 として指数化。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

電子部品受注、生産(前年比)は緩慢ながら回復基調



出所: 経済産業省、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券レポートからの抜粋により TDAM 作成

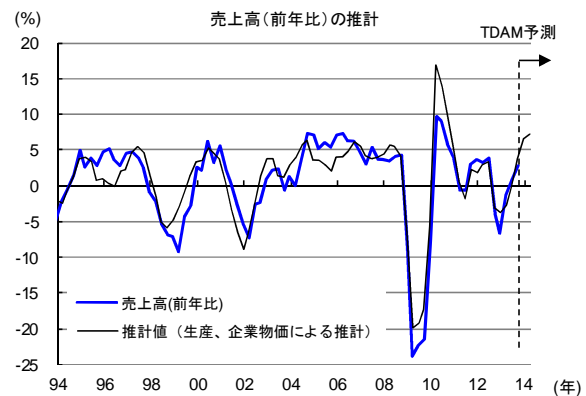
13 年度は 3 割程度の増益の可能性

【2013 年度経常増益率(TDAM試算)】

鉱工業生産 (前年比)	売上高伸び率 (推計)	固定費▲5% 限界利益率+0.5%	固定費▲2.5% 限界利益率+0.5%	固定費▲2.5% 限界利益率±0.0%
+7.5%	6.3%	52.1%	44.5%	32.1%
+5.0%	4.8%	46.0%	38.4%	26.2%
+2.5%	3.3%	40.0%	32.3%	20.3%
+0.0%	1.7%	33.9%	26.3%	14.4%
▲2.5%	0.2%	27.8%	20.2%	8.5%

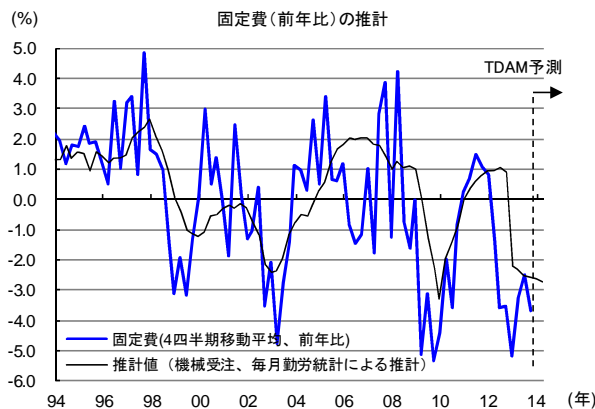
出所: Bloomberg より TDAM 予測

売上高は海外要因で増加傾向を予測



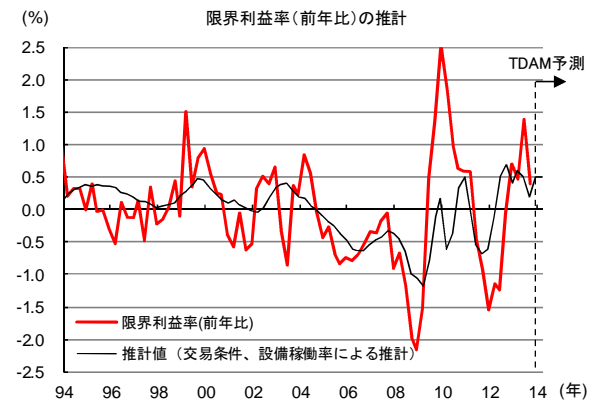
注: 対象は、法人企業統計の資本金 10 億円以上、金融除く
出所: 財務省、経済産業省、日本銀行、TDAM 予想

固定費は人件費中心に抑制傾向が続く見込み



注: 対象は、法人企業統計の資本金 10 億円以上、金融除く
出所: 財務省、内閣府、厚生労働省、TDAM 予想

限界利益率は交易条件の改善から緩やかに回復



出所: 日本銀行、経済産業省、TDAM 予測

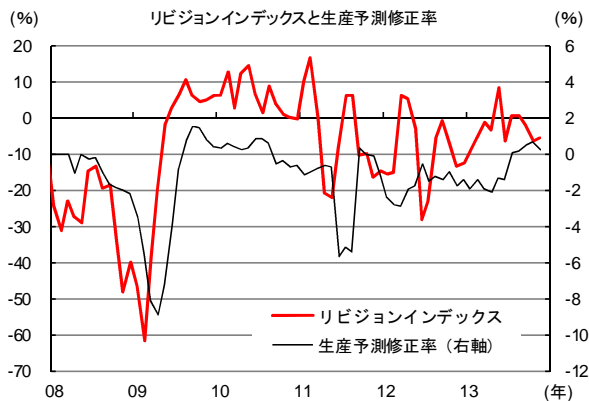
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2013 年度の会社予想は、3~4 割程度の経常増益

	2012年度:前年比			2013年度(予想):前年比		
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業
売上高	+2.7%	+2.9%	+2.3%	+8.8%	+10.0%	+7.3%
(修正率)				▲0.1%	+0.1%	▲0.2%
経常利益	+9.3%	+16.5%	▲0.2%	+34.3%	+41.8%	+22.5%
(修正率)				▲6.9%	▲0.6%	▲16.2%
当期利益	+19.6%	+29.7%	+7.5%	+98.9%	+113.5%	+77.4%
(修正率)				▲39.7%	▲23.7%	▲63.6%

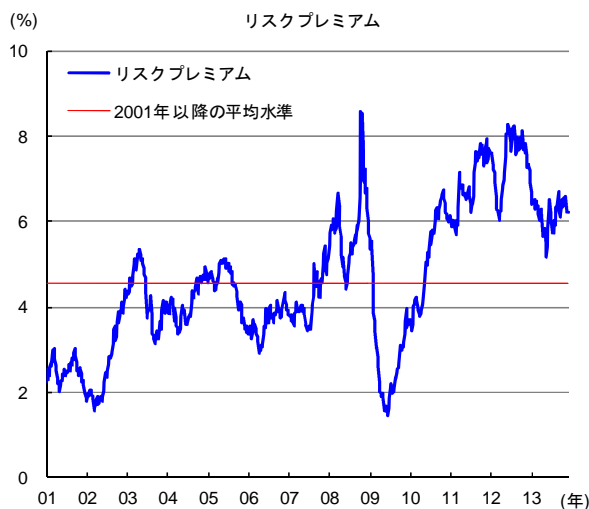
注: 東証一部に上場する企業(金融除く)のうち、3 月決算企業を集計。データは 11 月 25 日現在。修正率は 11 月 6 日データとの差。
出所: Quick 等より TDAM 作成

生産予測修正率は緩やかながら持ち直し傾向



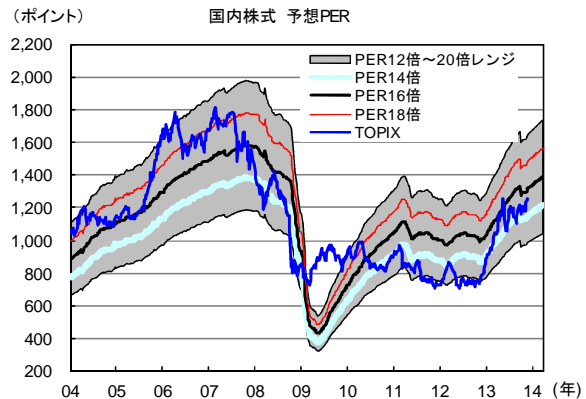
出所: 経済産業省、FACTSET より TDAM 作成

リスクプレミアムは 2012 年後半以降は総じて低下傾向



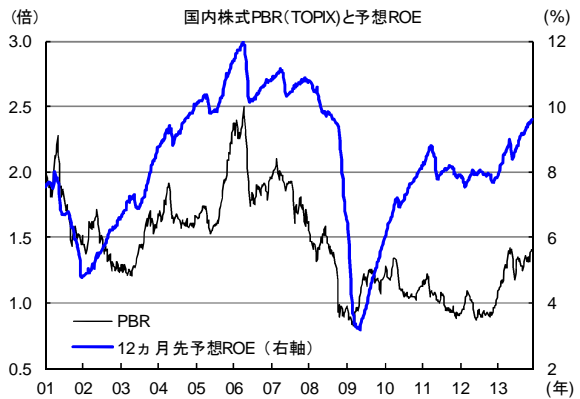
出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

予想 PER は足許 14.7 倍程度



注: 12 ヵ月先予想ベース。
出所: FACTSET より TDAM 作成

足許、PBR は 1.4 倍台、予想 ROE は 9% 台



出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

足許の TOPIX はリスクプレミアム 6%で、予想 ROE9%程度の水準

予想 ROE とリスクプレミアムによる PBR、株価マトリクス

【予想 ROE、リスクプレミアムの水準から推計される PBR 水準】

		予想 ROE					
		6% (52.7)	7% (61.5)	8% (70.3)	9% (79.0)	10% (87.8)	11% (96.6)
リスク プレ ミアム	3%	1.65	1.93	2.20	2.48	2.75	3.03
	4%	1.29	1.51	1.73	1.94	2.16	2.37
	5%	1.06	1.24	1.42	1.60	1.77	1.95
	6%	0.90	1.06	1.21	1.36	1.51	1.66
	7%	0.79	0.92	1.05	1.18	1.31	1.44
	8%	0.69	0.81	0.93	1.04	1.16	1.27

【予想 ROE、リスクプレミアムの水準から推計される TOPIX】

		予想 ROE					
		6% (52.7)	7% (61.5)	8% (70.3)	9% (79.0)	10% (87.8)	11% (96.6)
リスク プレ ミアム	3%	1,450	1,692	1,934	2,175	2,417	2,659
	4%	1,137	1,327	1,516	1,706	1,895	2,085
	5%	935	1,091	1,247	1,403	1,559	1,715
	6%	794	927	1,059	1,192	1,324	1,456
	7%	690	805	920	1,035	1,151	1,266
	8%	610	712	814	916	1,017	1,119

注: 括弧は、BPS828 円の場合の EPS 水準

出所: TDAM 予測

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

2-2. 外国株式

米内需中心の自律的な回復とインフレの落ち着きから、緩やかな上昇基調継続。

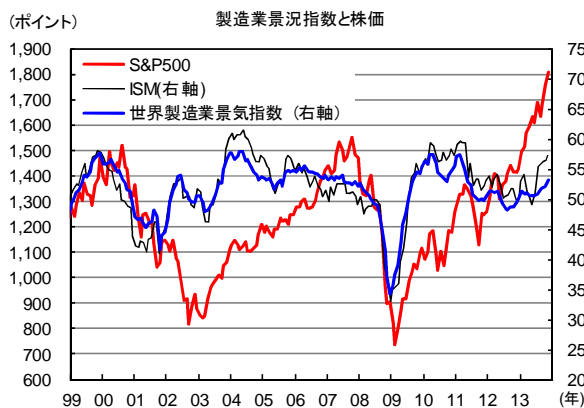
[米国株式]

S&P500のバリュエーションは、12ヵ月先予想EPS(119ドル程度)ベースのPERが15.1倍と過去比較ではほぼ平均並み～若干割高の水準にある。PER算出の基礎となるS&P500対象企業の業績見通しは、2013年第2四半期は+3%程度ながら、徐々に増益率を高め、年間では5%台の増益が見込まれている。米国経済においては、緩和的な金融政策のもとで、住宅市場の回復や家計のバランスシート調整の進展による底堅い消費が期待されるが、こうしたもと、景気が拡大する中では、長期金利上昇が企業業績にとっても大きな負担とはならず、予想EPSが今後大きく低下することもなさそうで、大幅な調整も予想しにくいものと思われる。

また、これまで懸念されてきた企業部門の景況感も足許では明確な改善基調を示している一方、足許の世界的な資源価格や穀物価格の落ち着きからインフレ懸念が高まりにくいことも、世界的な株価サポート材料と見込まれる。

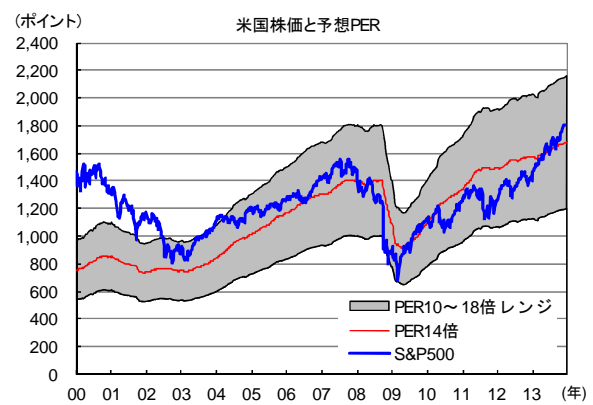
当面は、米国の金融緩和策縮小に伴う世界的な過剰流動性の縮小、新年度予算や政府債務上限などの財政問題が懸念材料となり上値の重い展開が予想されるものの、米国景気の回復基調は内需中心に維持される見通しであり、米国株価も緩やかな上昇を予想する。

米国株価は景況感の緩やかな回復の中で上昇傾向



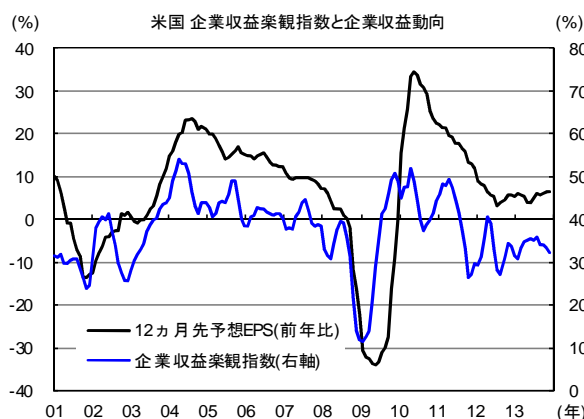
出所: Bloomberg より TDAM 作成

米国株価はPER15 倍と過去対比を若干上回った水準



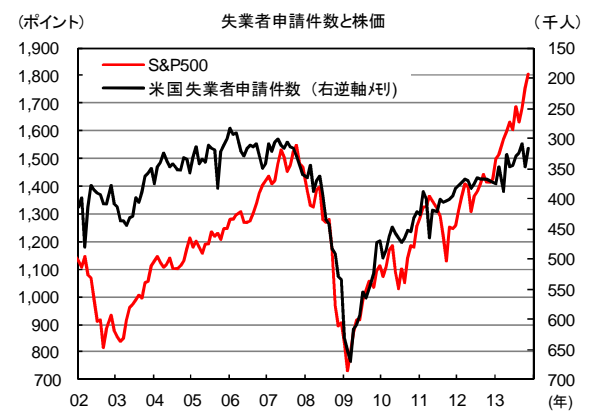
出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

企業収益見通しに先行する楽観指数は 30%台の落ち着いた推移



注: 企業収益楽観指数は、上方修正企業÷全体の企業数で算出。12 ヵ月先予想 EPS は S&P500 のデータを使用。
出所: FACTSET より TDAM 作成

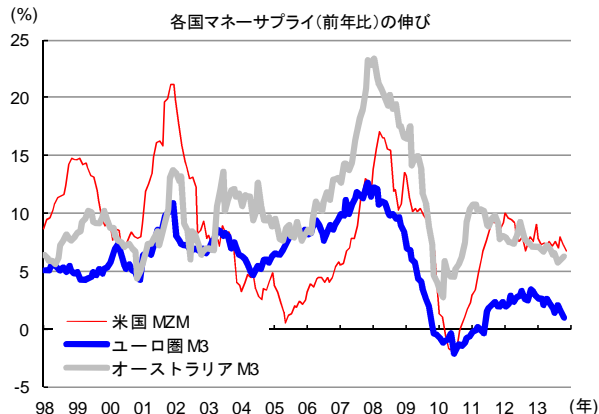
株価と連動性の高い米国雇用は緩やかながら改善基調継続



出所: Bloomberg より TDAM 作成

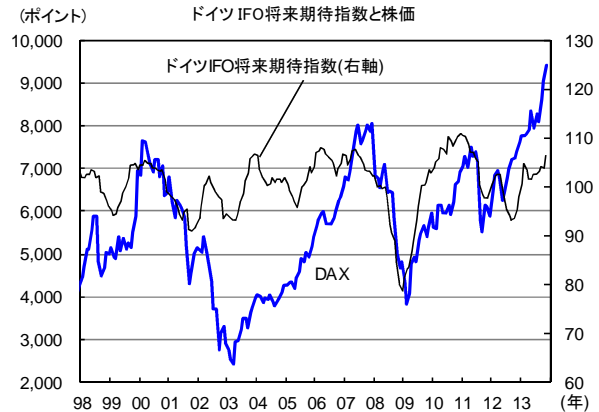
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

マネーサプライ伸び率は総じて安定的な推移



注: MZM(Money of zero maturity)とは、米国の通貨供給量の指標。米国は通常指標として使用しているM3を発表していないので、セントルイス連銀が発表しているこの指標を使用する。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ドイツの景況感は頭重いものの持ち直し傾向



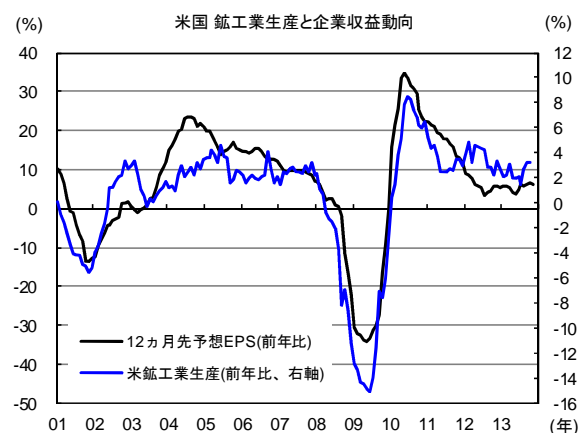
出所: Bloomberg より TDAM 作成

企業収益の見通しは落ち着いた推移



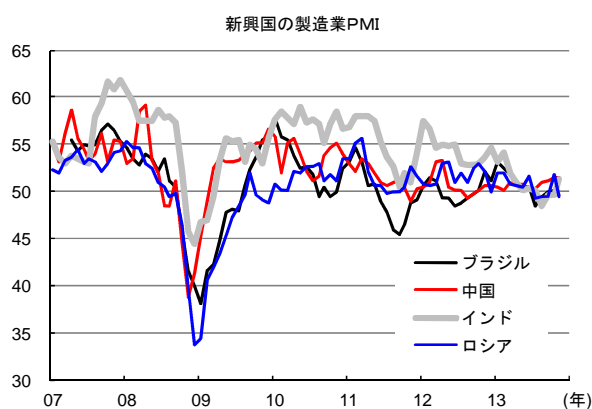
注: 12か月予想EPSは、S&P500のデータを使用。
出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

企業収益と連動する生産(伸び率)に底打ちの兆し



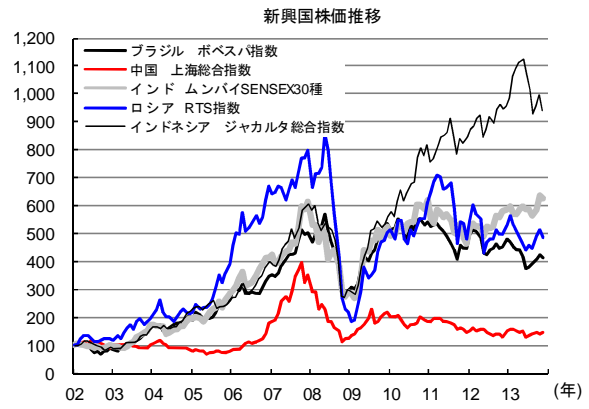
注: 12か月予想EPSは、S&P500のデータを使用。
出所: Bloomberg、FACTSET より TDAM 作成

鈍い新興国の製造業景況感の回復感



出所: Bloomberg より TDAM 作成

米量的緩和縮小懸念で頭の重い新興国の株価



注: 2002年1月31日の株価を100(基準値)として指数化。
出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

3. 為替

3-1. ドル円

当面、日米金融政策の方向性から円安基調ながら、実効レートからドルの上値も重い展開。

米財政協議や量的緩和策の早期縮小などへの懸念から、不安定な局面も予想されるが、基本的には、日本においてはインフレ2%を目指す金融政策の下で今後マネタリーベースの拡大が継続されることに加え、チャレンジ的な目標ゆえに追加緩和の必要性が高まりやすい一方、米国経済は緩やかながらも自律的な回復を継続する可能性から、実質長期金利差や日米マネタリー比率はドルサポートに動きやすく、円安基調は崩れにくい展開が予想される。

ただし、円の実質実効レートではすでに過去最安値圏に近いことから、ドル円レートは100円を超える水準からは徐々に上値は重くなることが予想される。

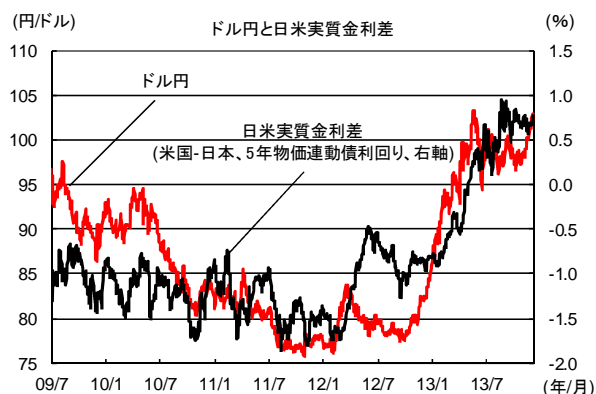
3-2. ユーロドル

ユーロの上値は限定的。

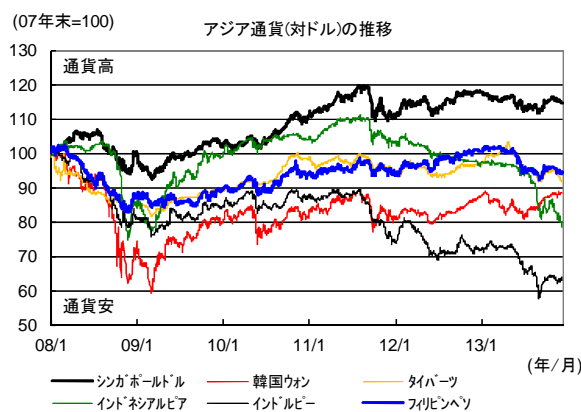
基本的には、景況感格差では米国優位であることには変わらず、ユーロ圏重債務国の財政再建が進展しない場合やインフレ率が一段と低下する場合にはフォワード・ガイダンスを導入したECBへの追加緩和期待が再び高まる可能性もある。また、1.35を超えるユーロ高もユーロ圏の景気回復の足かせとなる恐れもあり、ユーロ圏要人によるユーロ高牽制発言も強まることから今後のユーロの上値も限定的と思われる。

世界景況感の改善で、投資家のリスク資産選好の動きや過去最高となるユーロ圏の貿易・経常黒字への注目からユーロがサポートされやすい局面も想定される一方、米財政協議や量的緩和策の早期縮小などの米国発の懸念材料により市場がリスク回避的な動きとなった場合には、ユーロが対ドルで弱含む可能性が高いと思われる。

足許の実質金利差は、安定的な推移

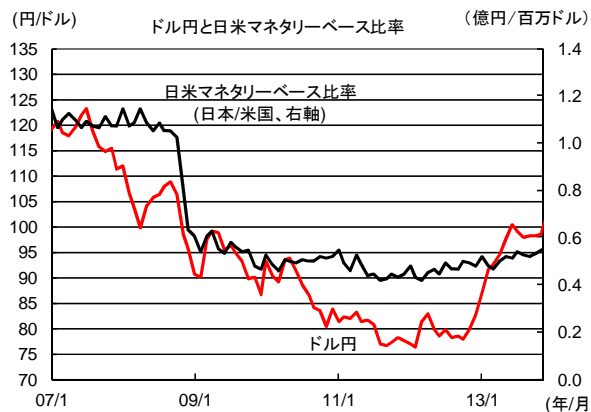


アジア通貨では、インドネシアルピアなどが依然下落基調



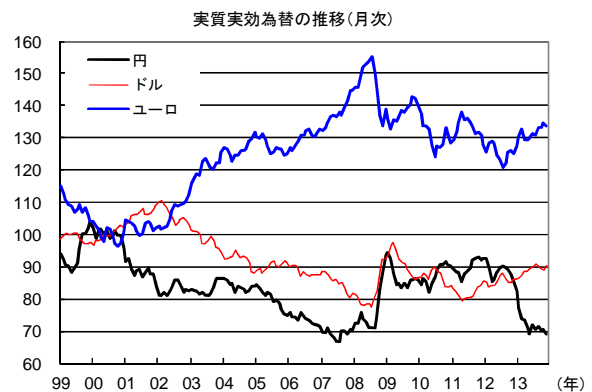
【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

為替の先行きの面でも注目される日米金融政策の行方



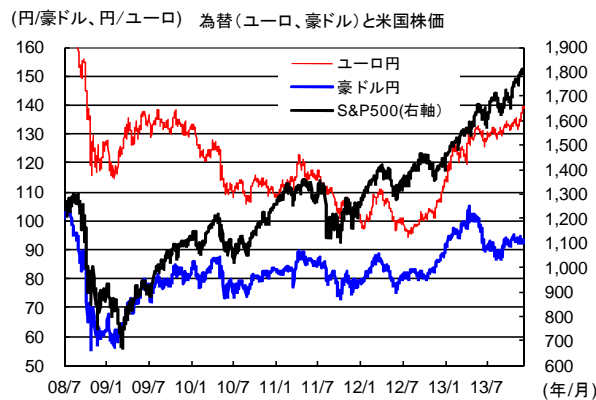
出所: Bloomberg より TDAM 作成

実質実効為替では、足許の円は過去対比で最も割安な水準



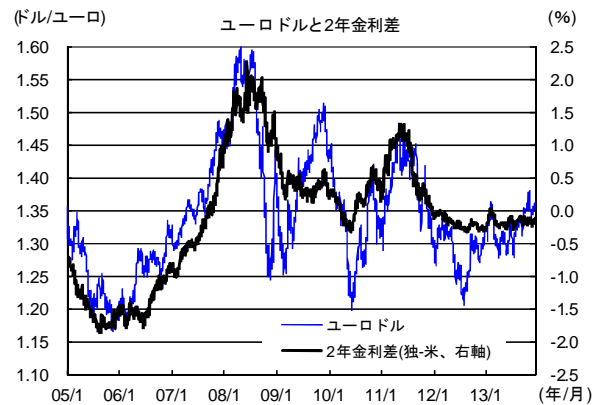
出所: JP モルガン、Bloomberg より TDAM 作成

豪ドルは金融政策の方向性などから足許やや上値の重い展開



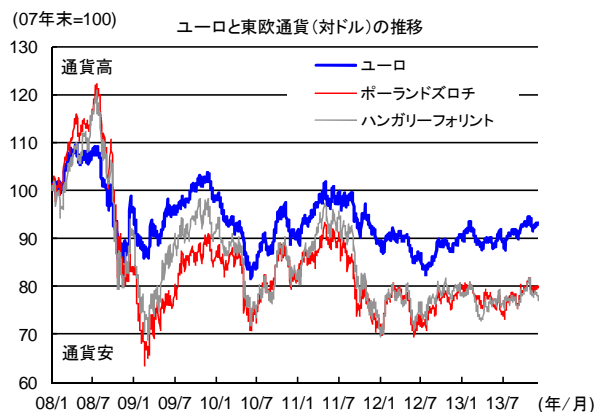
出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロドルは概ね金利差(独-米)と連動



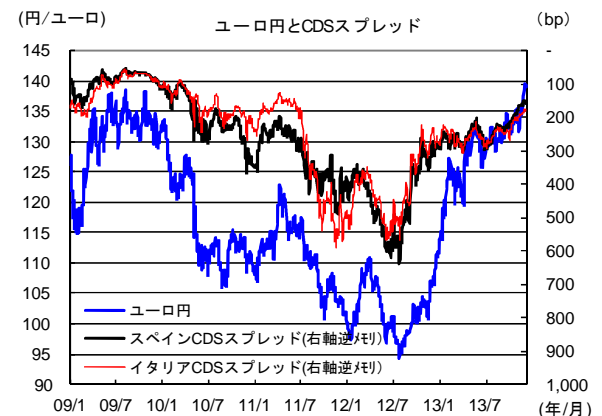
出所: Bloomberg より TDAM 作成

東欧通貨は、対ドルでユーロに連動



出所: Bloomberg より TDAM 作成

ユーロ円は、南欧諸国のCDSスプレッドの推移と連動



出所: Bloomberg より TDAM 作成

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

4. 市場見通し(まとめ)

			実績		予想					
			前月作成時 2013年 11月7日	今月作成時 2013年 12月5日	~2013年12月		2014年1~3月期		2014年4~6月期	
日本	コール翌日物	%	0.10	0.10	0.00 ~ 0.10	0.00 ~ 0.10	0.00 ~ 0.10	0.00 ~ 0.10	0.00 ~ 0.10	0.00 ~ 0.10
	10年国債利回り	%	0.60	0.63	0.50 ~ 0.90	0.50 ~ 0.90	0.60 ~ 1.00	0.70 ~ 1.10	0.70 ~ 1.10	0.70 ~ 1.10
	TOPIX	ポイント	1,185	1,230	1,050 ~ 1,450	1,100 ~ 1,500	1,125 ~ 1,525	1,150 ~ 1,550	1,150 ~ 1,550	1,150 ~ 1,550
	日経平均	円	14,228	15,177	13,500 ~ 16,500	14,500 ~ 17,000	15,000 ~ 17,500	15,250 ~ 17,750	15,250 ~ 17,750	15,250 ~ 17,750
米国	FFレート	%	0.00~0.25	0.00~0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25
	10年国債利回り	%	2.60	2.87	2.40 ~ 3.30	2.50 ~ 3.40	2.60 ~ 3.50	2.70 ~ 3.60	2.70 ~ 3.60	2.70 ~ 3.60
	S&P500	ポイント	1,747	1,785	1,500 ~ 1,900	1,550 ~ 1,950	1,600 ~ 2,000	1,625 ~ 2,025	1,625 ~ 2,025	1,625 ~ 2,025
	NY ダウ	ドル	15,594	15,822	13,500 ~ 17,500	14,000 ~ 18,000	14,500 ~ 18,500	14,750 ~ 18,750	14,750 ~ 18,750	14,750 ~ 18,750
ドイツ	レポレート	%	0.25	0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25	0.00 ~ 0.25
	10年国債利回り	%	1.68	1.86	1.40 ~ 2.30	1.50 ~ 2.40	1.60 ~ 2.50	1.70 ~ 2.60	1.70 ~ 2.60	1.70 ~ 2.60
	DAX	ポイント	9,081	9,085	8,300 ~ 9,800	8,500 ~ 10,000	8,700 ~ 10,200	8,900 ~ 10,400	8,900 ~ 10,400	8,900 ~ 10,400
為替	ドル円	円/ドル	98.09	101.79	90 ~ 108	95 ~ 108	98 ~ 111	101 ~ 114	101 ~ 114	101 ~ 114
	ユーロドル	ドル/ユーロ	1.342	1.367	1.25 ~ 1.38	1.25 ~ 1.38	1.25 ~ 1.38	1.25 ~ 1.38	1.25 ~ 1.38	1.25 ~ 1.38
	ユーロ円	円/ユーロ	131.63	139.12	118 ~ 144	125 ~ 144	132 ~ 148	136 ~ 152	136 ~ 152	136 ~ 152

出所: 東京証券取引所、日本経済新聞社、スタンダード&プアーズより TDAM 作成。TDAM 予想。

〔日本 長期金利〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔日本 株価〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔米国 長期金利〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔米国 株価〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

*「市場見通し(まとめ)」は、本資料作成時における見解であり、将来を示唆、保証するものではありません。

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

〔ドイツ 長期金利〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔ドイツ 株価〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔為替 ドル円〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔為替 ユーロドル〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

〔為替 ユーロ円〕



出所: Bloomberg より TDAM 作成

*「市場見通し(まとめ)」は、本資料作成時における見解であり、将来を示唆、保証するものではありません。

【当資料で使用するデータについて】

MSCI ドイツインデックスは、MSCI が開発したドイツの株式市場全体の動きを捉える株価指数です。同指数に関する情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その正確性及び完全性を MSCI は何ら保証するものではありません。その著作権は MSCI に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認ください、お客様ご自身でご判断ください。

【参考】当面の主要な政治・経済カレンダー

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
12/2 11月新車販売台数(14:00) 13/3Q法人企業統計(8:50) (米) 11月ISM製造業景況指数 12/1 (中) 11月PMI製造業	12/3 11月マネタリーベース(8:50) 10月毎月動労統計(10:30)	12/4 (英) 中銀 金融政策委員会(MPC、～5日) (EU) ユーロ圏 13/3Q GDP(確報値) (米) 10月貿易収支 (米) 10月新築住宅販売件数 (米) 11月ISM非製造業景況指数 (米) 地区連銀景況報告(ベージュブック)	12/5 (EU) ECB理事会 (米) 10月製造業受注 (米) 13/3Q GDP(改訂値)	12/6 10月景気動向指数(速報値、14:00) 臨時国会閉幕 (米) 11月雇用統計 (米) 12月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報値) 12/8 (中) 11月貿易収支
12/9 13/3Q GDP(2次速報、8:50) 10月国際収支(8:50) 11月貸出・資金吸収動向(8:50) 11月景気ウォッチャー調査(14:00) (中) 11月消費者物価指数	12/10 10月第3次産業活動指数(8:50) 11月マネーストック(8:50) 11月消費動向調査(14:00) (中) 11月鉱工業生産 (中) 11月小売売上高 (米) 10月卸売在庫	12/11 10月機械受注(8:50) 11月企業物価指数(8:50)	12/12 (米) 10月企業在庫 (米) 11月小売売上高 (米) 11月輸出入物価	12/13 10月鉱工業生産(確報値、13:30) (米) 11月PPI
12/16 日銀短観(12月調査、8:50) (EU) ユーロ圏 12月PMI(速報値) (米) 11月鉱工業生産 (米) 12月NY連銀製造業景況指数 (中) 12月製造業PMI(速報値)	12/17 (英) 11月CPI (EU) ユーロ圏 11月CPI(確報値) (独) 11月ZEW景況感調査 (米) 11月CPI (米) FOMC(～18日) (米) 13/3Q経常収支	12/18 11月貿易統計(8:50) (独) 12月IFO景況感指数 (米) 11月住宅着工・建設許可件数	12/19 10月全産業活動指数(13:30) 日銀金融政策決定会合(～20日) 10月景気動向指数(改定値、14:00) (米) 11月景気先行指数 (米) 11月中古住宅販売件数 (米) 12月フィラデルフィア連銀指数 EU首脳会議(ブリュッセル、～20日)	12/20 (米) 13/3Q GDP(確報値)
12/23 天皇誕生日 (米) 12月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)	12/24 12月日銀金融経済月報(14:00) (米) 11月耐久財新規受注 (米) 11月新築住宅販売件数	12/25 11月企業向けサービス価格指数 ◎(米) Christmas Day (米) リッチモンド連銀製造業指数	12/26 日銀金融政策決定会合議事要旨(11/20、21、8:50) 11月住宅着工件数(14:00)	12/27 11月家計調査(8:30) 11月完全失業率(8:30) 11月鉱工業生産(速報、8:50) 11月毎月動労統計(10:30) 11月全国・12月都区部CPI(8:30) 11月商業販売統計(速報値、8:50)
12/30 東証大納会	12/31 大晦日 (米) 10月S&Pケース・シラー米住宅価格 (米) 12月消費者信頼感指数 (米) 12月シカゴ購買部協会景況指数			

注: 12月5日時点。公表予定日、公表時刻は変更される場合があります。*は日時未確定。

出所: Bloomberg、各種HPよりTDAM作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。

【リスク情報】

(1) 国内株式

発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動して、投資元本を割込むことがあります。流動性の低い銘柄においては、流動性の高い銘柄に比べて株価の変動率が大きく、売買に支障をきたす可能性があります。発行者が民事再生手続や破産等になった場合、投資元本を大幅に下回り、全額を回収できなくなることがあります。

(2) 外国株式

前記の国内株式に関するリスクに加えて、外国為替市場の変動により、投資元本を割込むことがあります。発行者が主に外国で企業活動を行っており、外国の金融商品取引所(または店頭市場)に上場されていることから、各国における政治・経済・社会情勢の変動等により、企業業績の悪化、株式の売買が制限される等、売買や受渡等が不能になる場合があります。また、通貨不安の発生により、大幅な為替変動が起こり、円への交換が制限される、あるいはできなくなる場合があります。そのほか外貨建株式の取扱いは、それぞれの外国の売買制度や課税制度等に準じますが、これら制度等の変更が行われる場合があります。

(3) 国内債券

債券の価格は金利の変動等により上下しますので、償還前に売却する場合には、投資元本を割込むことがあります。また発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割込むことがあります。

(4) 外貨建債券

前述した国内債券に関するリスクに加えて、外国為替市場の変動により投資元本を日本円で受取る場合、投資元本を割込むことがあります。外国の政府や企業が発行者となる場合、国内債券と同様に信用リスクがあります。外国における政治・経済・社会情勢の変動等により、売買が制限される等、売買や受渡等が不能になる場合があります。また通貨不安が発生して、大幅な為替変動が起こり、円への交換が制限される、あるいはできなくなる場合があります。そのほか外貨建債券の取扱いは、それぞれの外国の売買制度や課税制度等に準じますが、これら制度等の変更が行われる場合があります。

(5) 国内新株予約権付社債

国内新株予約権付社債の価格は、転換の対象となる株式の価格変動や金利変動の影響、あるいは発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により上下しますので、投資元本を割込むことがあります。流動性の低い銘柄においては、流動性の高い銘柄に比べて価格の変動率が大きく、売買に支障をきたす可能性があります。発行者が民事再生手続や破産、あるいは債務不履行等になった場合、利払いが行われなくなる・全額が償還されないことがあります。また、投資元本を大幅に下回り、全額を回収できなくなることがあります。株式への転換を請求できる期間が限定されています。

(6) 投資信託

組入れた有価証券の価格変動により基準価額が変化し、投資元本を割込むことがあります。また組入れた有価証券の発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割込むことがあります。外貨建の有価証券を組入れる場合には、これらのリスクに加え外国為替市場の変動により、投資元本を割込むことがあります。なおクローズド期間中は換金ができないよう設定されています。

(7) 先物・オプション取引

対象とする原資産等の変動により価格が上下しますので、これにより差損が生じることがあります。またオプション取引の場合、オプションを行使できる期間が限定されています。

【お客様にご負担いただく費用等について】

投資信託に係る費用等について

- ◇ 投資者が直接的に負担する費用: 購入時手数料・・・**上限 4.2%(税込)**
信託財産留保額・・・**上限 0.6%**
- ◇ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用: 運用管理費用(信託報酬)・・・**上限 年 1.995%(税込)**
- ◇ その他費用・手数料: 上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、予めその料率、上限額等を具体的に示すことができません。
- ※ 当該手数料等の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
- ※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T&D アセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。詳しくは**投資信託説明書(交付目録見書)**でご確認ください。

投資一任契約、投資顧問契約に係る報酬等について

- (1) 投資一任契約、投資顧問契約に係る報酬額は、下記①または①と②の組合せにより、お客様との協議に基づいて決定させていただきます。
 - ① 定額報酬型
お客様の契約資産額に、一定の料率を乗じて算出します。料率は 2.1%(税込)を上限とし、契約資産額や運用手法、サービス内容等の事情に鑑み、個別協議により報酬額を決定させていただきます。
 - ② 成功報酬型
成功報酬の割合については、予め取り決めたベンチマーク等を超過した収益部分の 21%(税込)を上限とし、お客様の契約資産額や運用手法、サービス内容等の事情に鑑み、個別協議により決定させていただきます。
- (2) その他証券取引に伴う手数料、有価証券売買時に売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等。(その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。)
- (3) 報酬額には消費税額を含むものとします。
- (4) その他契約資産において株式等を保有している場合には、配当金等に対して、源泉税等がかかります。
- ※ 投資一任契約締結後、運用資産に投資信託受益証券等を組入れる場合には、当該投資信託受益証券等の購入・保持にかかる信託報酬・手数料・管理費用・税金等はお客様のご負担となります。
- ※ 上記で組入れた受益証券等に係る財産が他の投資信託受益権等に出資され、または拠出される場合にかかる費用については、投資対象が多岐にわたり、条件等も異なること、また随時投資対象が変更されることから、購入・保持にかかる信託報酬・手数料・管理費用・税金等については、予め明示できません。

【ご留意事項】本資料は、T&D アセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P35 のリスクや費用項目を必ずご確認いただき、お客様ご自身でご判断ください。